

第 2 章

山形大学教員研修会 「第 10 回 基盤教育 F D 合宿セミナー」

平成22年度基盤教育改善充実特別事業
第10回山形大学基盤教育 F D 合宿セミナー
「相互研鑽による基盤教育の飛躍をめざして」



日 時 : 平成22年 8 月 2 日 (月) ~ 3 日 (火)
場 所 : 山形大学蔵王山寮 (電話023-694-9669)
主 催 : 山形大学教育方法等改善専門部会
山形大学高等教育研究企画センター

F D 合宿セミナーに当たって

山形大学は6学部を擁する総合大学です。基盤教育は、総合大学の特性を有効に活用するために全学出動体制を採っており、それは山形大学の大きな個性にもなっています。学部の垣根を越え、山形大学全体の教育を考える上で、基盤教育は全ての教員の共通基盤となるものです。また、生き残りをかけた大学改革に際し、授業の充実は最も重要な課題の一つでしょう。

今回のセミナーの第一の目的は、「個々の教員が、大学を支えることの意義と位置付け、教育の基本的構成要素、各授業科目の存在意義、授業設計、成績評価法などについて、あらためて主体的に検討し、再構築していただくこと」です。この目的を達成するために、まず、参加者の皆様に御担当いただく新しい授業科目について考えていただきます。そして、そのシラバスをグループで協力して作成していただきます。こうした一連の作業が有効な方法であることは、既に広く知られています。

セミナーは、大学への参画意識を高めるための2つのプログラムと、シラバスを作成するための2つのプログラムから構成されています。各プログラムは、グループ作業を中心に組まれており、参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

また、「基盤教育を素材として、大学間・学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し、セミナーが終了した後は、参加者が大学の教養教育を始めとした教育全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナーは、「構成員こそが大学の財産」という精神でのぞんでいます。

更に、このセミナーは東日本地域の「FDネットワーク“つばさ”」を始めとして、全国の大学に開かれています。本セミナーが、相互研鑽の精神に則り、参加された大学・短大・高専の発展に寄与されんことを願っております。



第 10 回 山形大学基盤教育 F D 合宿セミナー日程表

期 間 第 1 チーム：8 月 2 日（月）～ 3 日（火）

第 1 日目

| 時 刻 | 項 目 | 担 当 | 参照ページ |
|-------------|------------------------|----------------|---------|
| 12:50 | 山形大学集合・受付（正門付近） | 事 務 | |
| 13:00 | 送迎バス 大学出発 | | |
| 14:00 | 会場到着 セミナー開会 開会のあいさつ | 司会： D R - A | |
| 14:30 | アイスプレ - キング | D R - A | |
| 14:50 | オリエンテーション | D R - A | P. 7 参照 |
| 15:00～16:30 | プログラム 「大学へのニーズと課題」 | D R - A | P.10参照 |
| 16:30～16:40 | 休憩（10分間） | | |
| 16:40～18:10 | プログラム 「理想の大学をつくる」 | D R - A | P.12参照 |
| 18:10～19:00 | 夕食 | | |
| 19:00～20:30 | 入浴・休憩 | | |
| 20:30～22:30 | 懇親会 | D R - B | |
| 22:30 | 中締め | | |
| 23:00 | 就寝 | | |

第 2 日目

| 時 刻 | 項 目 | 担 当 | 参照ページ |
|-------------|-----------------------------|---------|--------|
| 7:30～ | 朝食・部屋退出 | | |
| 8:30～10:00 | プログラム 「科目設計 1：授業名と目標，内容の作成」 | D R - B | P.14参照 |
| 10:00～10:10 | 休憩（10分間） | | |
| 10:10～11:40 | プログラム 「科目設計 2：シラバスの完成」 | D R - B | P.18参照 |
| 11:40～ | 修了式 | D R - B | |
| 12:20～ | 昼食 | | |
| 14:30 | 送迎バス 蔵王山寮出発 | | |
| 16:00頃 | 大学到着 解散 | | |

【留意事項】

セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。

セミナー期間中の個人の呼称は、「 さん」とします。

食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら，共同で配膳作業等を行ってください。

起床と同時に，寝具を使用前と同様に整理・整頓し，使用した宿泊室・廊下等を清掃してください。

退出の際は，使用したシーツ・枕カバーをたたんで，指定する場所に返却してください。

8月2日～3日 第1チーム

| | |
|------|------|
| DR-A | 元木幸一 |
| DR-B | 杉原真晃 |
| DR-C | 酒井俊典 |

| A班 | 氏名 | 性別 |
|------|------|----|
| 山大地教 | 村山良之 | 男 |
| 山大工 | 前山勝也 | 男 |
| 山大医 | 鶴田大作 | 男 |
| 八短 | 三浦広美 | 女 |
| 会津 | 川口立喜 | 男 |

| B班 | 氏名 | 性別 |
|-----|------|----|
| 山大理 | 本山 功 | 男 |
| 山大工 | 山野光裕 | 男 |
| 仙台 | 早川公康 | 男 |
| 東洋 | 曾田長人 | 男 |
| 東文 | 阿部建夫 | 男 |

| C班 | 氏名 | 性別 |
|------|------|----|
| 山大地教 | 加藤健司 | 男 |
| 山大農 | 片平光彦 | 男 |
| 山大工 | 森本卓也 | 男 |
| 日本橋 | 伊藤礼子 | 女 |
| 宇都宮 | 久保元芳 | 男 |

| D班 | 氏名 | 性別 |
|------|------|----|
| 山大農 | 程 為国 | 男 |
| 山大工 | 加藤正治 | 男 |
| 山大人文 | 嶋田珠巳 | 女 |
| 山梨 | 丸山正次 | 男 |
| 岡山 | 荒井 剛 | 男 |

| E班 | 氏名 | 性別 |
|-----|------|----|
| 山大工 | 恒成 隆 | 男 |
| 山大医 | 關亦明子 | 女 |
| 東音 | 安原理喜 | 男 |
| 高崎 | 木幡直樹 | 男 |
| 仙台 | 武石健哉 | 男 |

| F班 | 氏名 | 性別 |
|-----|-------|----|
| 山大理 | 近藤慎一 | 男 |
| 山大工 | 門叶秀樹 | 男 |
| 北翔 | 高岡朋子 | 女 |
| 岐阜 | 小野木満照 | 男 |
| 松本 | 矢崎 久 | 男 |

山大人文:山形大学人文学部 山大地教:山形大学地域教育文化学部 山大理:山形大学理学部
 山大医:山形大学医学部 山大工:山形大学工学部 山大農:山形大学農学部
 東洋:東洋大学 日本橋:日本橋学館大学 松本:松本大学 山梨:山梨学院大学
 岡山:岡山県立大学 宇都宮:宇都宮大学 東音:東京音楽大学 高崎:高崎健康福祉大学
 北翔:北翔大学 会津:会津大学 仙台:仙台大学 八短:八戸短期大学 岐阜:岐阜医療科学大学
 東文:東北文教大学

オリエンテーション

(担当：DR - A)

1 F D の必要性

大学の社会的教育責務の明確化

大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革

大学生の質の変化への対応

2 合宿セミナーの目的

教員個人が大学を支えること的位置付け

教育の基本的構成要素，大学における各科目の存在意義，授業設計，成績評価法などをあらためて整理する。

教員相互の交流

3 セミナー形態

体験型のセミナーで，セミナー自体がグループ学習形式であり，参加者は，学生が運営する学生主体型授業を体験することになる。

参加者によるセミナー全体の運営

セミナーのグループ構成：6 班

班の構成員の年齢は幅広くする。

各プログラムに，毎回，総合司会者と記録係を置く。(各班の持ち回り)

各班に，毎回，司会者と記録係，発表者を置く。(持ち回り)

全体と各班の記録係は，各プログラム終了後に記録を提出(この記録は，コピーした後，速やかに全班に配付)

参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で，各参加者が各班の発表と質疑応答に対し，5 段階で評価を与える。(この評価は，毎回回収し，整理した後，速やかに掲示する。)

合宿セミナーに関するポストアンケートを実施

4 各プログラムの基本的形態

各プログラムの講師による作業内容の説明 10 分

グループ作業 40 分

発表 各グループ 24 分

(各グループの発表時間 4 分 × 6 班)

全体討論 16 分

全体で 90 分

平成 22 年度 第 10 回山形大学基盤教育 F D 合宿セミナー
「相互研鑽による基盤教育の飛躍をめざして」

セミナーの形態

体験型のセミナーで、セミナー自体がグループ学習形式であり、参加者は、学生が運営する学生主体型授業を体験することになる。

参加者によるセミナー全体の運営

班構成：6 班 班の構成員の年齢は幅広くする。班は、参加者を見て、当日までに専門部会で決定しておく。

各セミナーに、毎回、司会者と記録係を置く。（各班の持ち回り）

各班に、毎回、司会者、記録係及び発表者を置く。（持ち回り）

各プログラムの基本的構成

| | |
|-------------------------|------|
| 各プログラムを担当する講師による作業内容の説明 | 10 分 |
| 班ごとの作業 | 40 分 |
| 発表 各班の発表時間 4 分 × 6 班 | 24 分 |
| 全体討論 | 16 分 |

全体と各班の記録係は、A 4 版 1 枚程度に記録をまとめ、各プログラム終了後に提出する。（この記録は、コピーした後、速やかに参加者全員に配布）

参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で、各参加者が各班の発表（各 4 分で計 24 分）と質疑応答に対して評価する。5 段階評価とし個人は 18 点の持ち点を有する。（この評価は、毎回回収し、整理した後、速やかに全班に配布）

プログラム 「大学へのニーズと課題」

各班同じテーマ 次のプログラムも念頭に置く。

大学の分析

- ・大学の置かれている状況分析
- ・社会的ニーズ
- ・長所（望まれること）
- ・短所（望まれないこと）
- ・現実的な制約・問題点、改革の必要性など

プログラム 「理想の大学をつくる」

プログラム の問題点等を踏まえた上で、理想の大学をためには、これからどのようなことを考え、実行していかなければならないか、具体的に提案する。

大学の理念・目標を実現するための具体的行動目標、大学の「個性」と「売り」をどうするか。すべての班が同じテーマであるが、個性あふれる現実的企画を期待する。

大学の「売り」を作る企画が求められる。

理念・目標

- ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
- ・個性的な大学像（理念・目標、キャッチフレーズ）

方略（考えられるいくつかの方法、実現の可能性）

実行計画（主な活動、資源、時期、担当、責任、具体的企画書等）

- ・その宣伝・普及の方法（4 年計画案）

評価（測定方法、学生、教員、ステークホルダー）

- ・目標が達成できたかどうかを検証する。

プログラム 「科目設計 1：授業名と目標，内容の作成」

各授業に分かれ，以下の指定された授業において適当な科目を作り，その科目名（名は体を表す科目名）とその学習目標を明らかにする。履修の時期も明確にする。

A，B 班：大学の個性を発揮する授業

C 班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携

D 班：国際性を培う授業

E 班：21 世紀の諸課題に対応する授業

F 班：職業意識と労働意欲を培う授業

学習方略

授業内容（順次性を踏まえて設計）

授業の方法（講義，ビデオ，見学，調査，討論，担当教員等）

つづいて，授業内容を設計する。原則として，週に 1 回 90 分授業を 15 回実施するとして，15 回分の授業内容（方略）を設計する。授業の順序と各回の内容，授業法，媒体，資源などを現実的に示す。方略を設計するに当たり，目標の修正が必要になるかもしれない。この場合は，目標を手直しする。

プログラム 「科目設計 2：シラバスの完成」

「科目設計 1」で設計した授業内容を手直しし，「評価」の項を加え，シラバスを完成させる。

成績評価

評価項目

評価方法

評価比重（％）

プログラム 「大学へのニーズと課題」

(担当：DR - A)

各班同じテーマ プログラム も念頭に置く。
現実的，具体的に解析する。

- 1 大学には何が求められているか？
 - ・社会は大学に何を求めているか？
 - ・学生のニーズ
- 2 大学の置かれている状況分析
 - ・そこには，どのような課題（問題）があるか？
 - ・長所（望まれていること）
 - ・短所（望まれていないこと）
 - ・その生じさせている理由・原因は何か？
- 3 現実的な制約・問題点，改革の必要性など

プログラム 「理想の大学をつくる」

(担当：DR - A)

プログラム の問題点などを踏まえた上で，理想の大学をつくるためには，これからどのようなことを考え，実行していかなければならないか，具体的に提案する。大学の理念・目標を実現するための具体的行動目標，大学の「個性」と「売り」をどのようにするか。すべての班が同じテーマであるが，個性あふれる現実的企画を期待する。
大学の「売り」を作る企画が求められている。

- 1 大学の理念・目標
 - ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
 - ・個性的な大学像（理念・目標，キャッチフレーズ）
- 2 方略（考えられるいくつかの方法，実現の可能性）
- 3 実行計画（主な活動，資源，時期，担当，責任，具体的企画書など）
 - ・その宣伝・普及の方法（4年計画案）
 - ・組織論（学部，学生の入口と出口（入試制度と就職），学長と副学長制，委員会など）
- 4 評価（測定方法，学生，教員，ステークホルダー）
 - ・目標が達成できたかどうかを検証する

プログラム 「科目設計 1：授業名と目標，内容の作成」

(担当：DR - B)

ここでの課題

シラバス作成作業の第 1 段階として，グループごとの課題に対応した授業名と学習目標の設定を行う。

プログラム ， の各グループの課題

- A，B 班：大学の個性を発揮する授業
- C 班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携
- D 班：国際性を培う授業
- E 班：21 世紀の諸課題に対応する授業
- F 班：職業意識と労働意欲を培う授業

学習方法と道筋（戦略，学習方略）を明示する。具体的には，学習者が到達目標に達するために必要な学習方法の，種類と順序を示す。

作業 1 授業名の決定： (仮称) 内容確定後，最後に決定？

作業 2 学習目標の設定

1 踏まえておくべきことから：

- (1) 教員中心ではなく，学生による学習を中心に考える（教員の果たすべき役割の再検討）
- (2) 大学に対する社会的ニーズ
- (3) 大学の全体的な教育目標

註：(1)について

| | |
|--------------|-------------------|
| 大学の役割 | 学習方法と教育方法のデザイナー |
| 講義の提供 | 教員と学生を一つのチームと考える |
| 学生から独立 | すべての学生の能力と才能を引き出す |
| 学力差を明確にする | |
| 成功へ向けて | |
| 伝授する資源の重視 | 学習と学生の成功の産物を重視 |
| 資源の量と質の重視 | 産物の量と質を重視 |
| 入学生の質の重視 | 卒業生の質を重視 |
| カリキュラムの発展と拡大 | 学習技法の発展と拡大 |
| 大学の質・内容の質 | 学生の学習の質 |
| 使命 | |
| 知識の提供・伝授 | 学習を生み出し，知識の発見と形成へ |
| コース・プログラムの提供 | 強力な学習環境の提供 |
| 教育の質の改善 | 学習の質の改善 |
| 多様な学生への対応 | 多様な学生を卒業させる |
| 教育 | |
| 教員中心・知識伝授 | 学生中心・知識発見 |
| 教育の質 | 学習の質，学習効果・効率 |
| 指導者としての教員 | 学生の才能・能力を引き出す助言者 |
| 個人的・受動的学習 | 共同的・行動的・能動的学習 |

2 学習目標の記述

各科目の学習目標を表現することの必要性とその表現方法を学ぶ。学習の効果は、教育の受け手（学習の主体）である学生の変容で評価されるべきである。そのために、授業の目標と到達目標を定める。

註：授業の目標を作成する際の注意点

原則

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 学習の結果、いかなることができるようになるかを明示する

記述内容

- (1) 知識・技能の学習がなぜ重要か。それによって学生の要求がどのように満たされるかを明示する。
- (2) 複雑・総括的な概念を持つ動詞を用いる。
知る，認識する，理解する，感ずる，判断する，評価する，考察する，位置付ける，実施する，適用する，示す，創造する，身に付ける，等々
単純な行動を示す動詞は用いない（述べる，列挙する，選ぶ，記載する等々）
- (3) 必要な目標分類（認知・態度・技能）を総括的に含める。

註：到達目標を作成する際の注意点

授業の目標を達成するためにどのようなことができるとよいか、具体的に明示する。

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 動詞を含むこと
- (3) 「理解する」のような概念的言葉ではなく、観察可能な行動を具体的に表す
- (4) 授業の目標と関連していること
- (5) 到達レベルを書く
- (6) 認知，態度，技能を分けて書く
知識（認知領域）：知識を得て理解し，一定の能力を獲得する
述べる，説明する，分類する，比較する，解釈する，推論する，一般化する，適用する，結論する，批判する，評価する，等々の動詞
技能（精神運動領域）：知識・能力を活かして意識的・具体的に行動する
感ずる，始める，模倣する，工夫する，行う，創造する，触れる，調べる，準備する，測定する，等々の動詞
態度・習慣（情意領域）：獲得した知識・能力を，情報として相互に提供・交換し合う，行う，コミュニケーションする，協調する，示す，表現する，系統立てる，参加する，応える，等々の動詞

作業 3

原則として、週に 1 回 90 分の授業を 15 回実施するものとして、授業の内容を考えてみる。その際、授業の順序と各回の内容、学習法、利用する媒体、資源などについて明示する。内容によっては、授業の目標、到達目標、さらには科目名についても変更が必要になるかもしれない。

註：学習方法の種類

- (1) 受動的学習法：講義など
- (2) 能動的学習法： グループ討議（演習，セミナー，ディベートなど）
実験・実習
自習（読書，個人研究，コンピュータ活用学習など）

註：学習のための資源

- (1) 人的な面で：
- (2) 物的な面で： 場所， 媒体（スライド，OHP，標本，VTRなど）
- (3) 予算

プログラム 「科目設計 2：シラバスの完成」

(担当：DR - B)

ここでの課題

プログラム で作成した授業について、シラバスを完成する。

成績評価

その位置付け

- (1) 教育評価は、学生、教員、カリキュラム（目標、学習方法の立案（方略）、評価）の三者が対象
- (2) 成績評価は、その中の一つ。

留意点

- (1) どの行動領域を評価するか
 - 知識（認知領域）
 - 技能（精神運動領域）
 - 態度・習慣（情意領域）
- (2) いつ評価するか
 - 学習前（プレテスト）
 - 学習中（中間テスト）
 - 学習終了後（ポストテスト）
 - フォローアップ・テスト
- (3) 評価の目的
 - 形成的評価：学生が理解している点、理解が不足している点を発見し、学習法、教授法へのフィードバックが目的。最終評価の参考にしない。
 - 総合評価：到達目標に対する学生の到達度を計測する。
- (4) いかに評価するか、複数の評価項目のウェイト
 - 論述試験
 - 口頭試験
 - 客観試験
 - 実地試験
 - 観察試験
 - 論文（レポート）

評価の持つべき性格

- (1) 妥当性：計測しようと意図する項目を計測できる方法か？
- (2) 信頼性：計測結果の再現性は良いか？
- (3) 客観性：計測者（教員）が替わっても、同じ結果が得られるか？
- (4) 効率性：経済的にも時間的にも実用的か？
- (5) 特異性：なぜ、そういう解答がなされたか分かるか？

| | |
|--|----------------------------|
| <h2>ききょう班(B班)</h2> | 司会者：本山 記録者：山野 発表者：早川 |
| <p>ニーズ</p> <p>会社 { 実務(基礎、専門性、英語、コンピュータ) キャリア形成 コミュニケーション</p> <p>学生 { 自分探し 資格</p> <p>親(子供の将来)</p> <p>状況 会社・学生のニーズをマッチさせるには...</p> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改革の検証 ・改革の目的が不明 | |

| | |
|--|----------------------------|
| <h2>ギョウザ班(C班)</h2> | 司会者：久保 記録者：森本 発表者：伊藤 |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 実践力・即戦力 基礎力 <u>自らでしあわせになる力</u> 就職・資格 2 社会状況の認識不足 (<u>コミュニケーション不足</u>) 3 社会が求める基礎力 | |

| | |
|---|--------------------------|
| <h2 style="margin: 0;">でこぼん班(D班)</h2> | 司会者：加藤 記録者：嶋田 発表者： |
| <p>1 社会 大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性 ・卒業生としての人材 <p style="margin-left: 100px;">} ・人的交流 ・地域・世界を知る</p> <p>学生のニーズ - 就職 ←</p> <p>2 大学の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>マンパワー</u>の不足 教員の研究への専念が不可能 (チュータ、TA、事務、学生への精神的ケア) <p>社会認識とのズレ ↗</p> <p>3 大学はもっと社会とコミュニケーションする！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の現状を知っていただく ・学生の学力 etc の現状と大学にできること ・学生の主体性 | |

| | |
|--|----------------------------|
| <h2 style="margin: 0;">アリとセミ班(E班)</h2> | 司会者：恒成 記録者：関亦 発表者：安原 |
| <p>1 大学に何が求められているか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会、学生の他に保護者のニーズも存在する。 ・学生、保護者からは、資格・就職へのニーズが強い。 ・社会からのニーズも、学生、保護者からのニーズと同様か？ ・専門性を身につける ・地域貢献 <p>2 大学の置かれている状況分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題： <ul style="list-style-type: none"> ・専門性を深めるべきだが、浅く広く単位をとることを求められてしまう。高校化 ・自由度が低い(能力にかかわらず4年同様に縛られてしまう) ・長所：学生の能力向上(専門性) ・短所：資格・就職のみがもとめられ、大学のコアの部分が欠けている？ <p>3 現実的制約、問題点、改革の必要性など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制約：これまでの施設、人材の中で行われる必要がある。 <p style="margin-left: 40px;"> 資格、就職 —————> 専門性の向上 極めれば... </p> | |

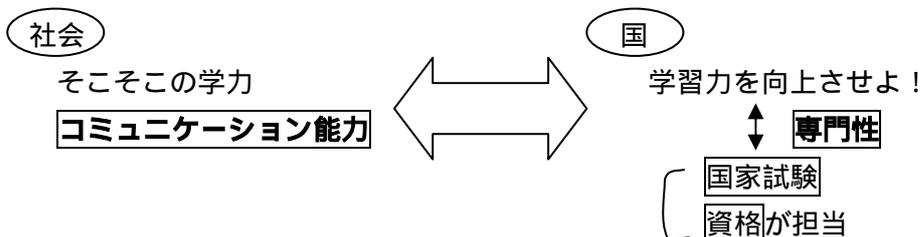
新鮮組班(F班)

司会者：小野木

記録者：門叶

発表者：矢崎

1



学生のニーズ

授業アンケート

- ・ 教員への誹謗中傷
- ・ 本当の声が抽出できるか?

2 ・ 地域に根ざす大学?

(・ 良い大学と底辺層をとる大学はあるが、中間層を受け入れる大学がない。)

・ 入試前教育を実施せざるを得ない。

・ 少子化 - 全入時代

・ どうやって学力を上げるか?

基礎学力養成セミナーをやっても、本当に必要な学生は来ない。

3 少子化より学力が低下?

幅広い学力層の学生をいかに教育するか?



グループ作業記録 プログラム 全体討議記録

1 求められる教育

社会のニーズ

基礎力：社会で求められる能力【基礎学力、コミュニケーション能力、社会適応性<常識・一般教養含む>・英語】

専門能力

地域への還元（産学連携・地域貢献...）

学部によっては国家資格試験合格率 up

学生のニーズ

就職・資格 自分を幸せにする

保護者のニーズ

子供の将来

2 大学の状況・問題点

マンパワーの不足（教員が研究+教育+... 多くの仕事がある）

大学の高校化（入試前教育）・中等教育の問題（ゆとり教育 etc） ←

社会状況の認識不足（社会とのコミュニケーション欠如）

取得単位数多い（浅く広く学ばざるを得ない）

変化する社会に大学がどう迅速に対応できるか

幅広いレベルの学生をどう指導するか（学力のバラツキ）

社会とのずれ



プログラム 「理想の大学をつくる」

グループ作業記録

| | |
|---|----------------------------|
| <h3>新人班(A班)</h3> | 司会者：鶴田 記録者：三浦 発表者：川口 |
| <p>1 大学の理念・目標 < インターンシップ実習教育を重視する > “総合大学”</p> <p>個々を伸ばす 地域交流 研究(教育)は世界レベルで教育(研究)は地域密着で</p> <p>2 方略 社会と接点を持たせる 将来に対するモチベーションを持たせる</p> <p>3 実行計画</p> <p> 宣伝・普及活動 インターネット、高校訪問、企業訪問、パンフレット配布、就職の実績 研究実績のある教員 } の宣伝 イメージ 有名な教員 } ブランドの構築 </p> <p> 学生の入口と出口 地域の企業との関わり、就職先とのつながり (入試制度と就職) 企業との共同研究 </p> <p>4 評価</p> <p> 学生による満足度のアンケート 教員 企業 卒業生 </p> <p style="text-align: center;">  </p> | |

| | |
|--------------------|---|
| <h1>ききょう班(B班)</h1> | 司会者：山中 記録者：早川 発表者：曾田 |
| 具体化 | 1 大学の理念・目標 ・学生第一、敬愛信 ・地域社会への貢献ができる人材育成 |
| | 2 方略 ・産学官 { 先端技術 地域還元 ・社会的責任...倫理観と利潤追求のバランス (企業など) |
| | 3 実行計画 ・地域 社会 ↑↓ センター組織(パイプ役) 大学 ・社会奉仕活動必修化 |
| | 4 評価 ・地域からの評価 ・卒業生の活躍の評価・検証 |



| | |
|---|----------------------------|
| <h1>ギョウザ班(C班)</h1> | 司会者：片平 記録者：加藤 発表者：久保 |
| <p>1 大学の理念・目標 コミュニケーション能力の高い社会的多様性を重んじる「人間力」のある<u>幸せ</u>になれる (我々も含め)大学</p> <p>2 方策 乗り越える力 <u>体験型</u> 小さいグループでの共同作業他 <u>全寮制(一年次)</u></p> <p>3 実行計画 1年目 ・教員の<u>学内外での研修</u> ・基礎力を徹底してつけさせる <u>全寮制を国内外にアピール</u></p> 2年目 ・基礎力から社会に出るために必要十分な 基礎的専門性 <p>4 評価 アンケート<保護者・学生・就職先> 追跡アンケートも</p> | |



| | |
|--|----------------------------|
| <h1>でこぼん班(D班)</h1> | 司会者：丸山 記録者：荒井 発表者：丸山 |
| <p>1 大学の理念・目標「学ぶ、話す、共に生きる」</p> <ul style="list-style-type: none">・価値の多元化・多文化の共生・社会への適応 <p>学部 世代 地域 文化</p> <p>を超えて</p> <p>共生 <u>多様性を重視</u></p> <p>多様性が様々なことを育む</p> <ul style="list-style-type: none">コミュニケーション能力教員の能力 <p>etc</p> <p>2 方略</p> <ul style="list-style-type: none">・第2学部に入れる・総合大学とする・基礎教育の充実 <p>3 実行計画</p> <ul style="list-style-type: none">・教養教育2年・専門で学ぶ条件をつける <p>4 評価</p> <ul style="list-style-type: none">・評価ありきでは理想を考えられなかった 歴史が決める!? | |



| | |
|--|----------------------------|
| <h1>アリとセミ班(E班)</h1> | 司会者：関亦 記録者：安原 発表者：木幡 |
| <p>1 大学の理念・目標 好きなことが思いっきり学べる大学</p> <p>2 方略 大学連携の活用</p> <ul style="list-style-type: none">・移動時間・時間割の一致・遠隔授業(Eラーニング)・放送大学との連携 <p>3 実行計画 好きな時に入れて好きな時に出られる</p> <ul style="list-style-type: none">・入学時のプレゼンテーション・後期入学可能、前期卒業可能 <p>4 評価 評価はきびしく</p> | |



新鮮組班(F班)

司会者：近藤

記録者：高岡

発表者：小野木

1 大学の理念・目標

<基礎学力+ (専門性+コミュニケーション)> 人間力とする



人間力を身につけよう(キャッチフレーズ)

2 方略

個別指導 - 教育方針

3 実行計画

学習達成度記録

学生に計画、自主力の育成

<コメントシート>

半期ずつ(10人=1人)担任を割振る

4 評価

FD/S D委員会に、学生代表、教員、事務職を入れた検討会

目標を決め、実行できたかどうかの評価を行う(別の人が見る)

大学の満足度を評るもの ←

第三者評価機構を作る

エクストラ

- ・日本の教育システムを変える
- ・卒業したい大学(前入学)制度にする
- 単位互換制にする(アメリカ方式)

グループ作業記録 プログラム 全体討議記録

E アリとセミ

好きなことが思いきり学べる大学

大学間の連携

・単位互換 問題：移動が困難、時間割の不一致

対策：遠隔授業(Eラーニング)

放送大学との連携

好きな時期に入る、卒業・入学時プレゼン

評価は厳しく

D でこぼん

評価はやめよう。歴史がきめる。

「学ぶ、話す、共に生きる」

価値の多様化、多文化共生、社会適応

基礎教育の充実、総合大学、社会人入学

C ギョウザ

「人間力」のある 幸せになれる

体験型、一年間全寮制、ギョウザ作り

2年目以降専門性

保護者へのアンケート、学生自身、卒業生の追跡

B ききょう

地域社会への貢献ができる人材育成。

産学官 - 地域還元

社会的責任 - 倫理観 / 利潤バランス

パイプ役 - センター組織

社会奉仕活動必修化

卒業生、同窓会

A 新人

個性をのばす インターンシップ

高校訪問、大学アピール

企業・就職先

卒業生アンケート

F 新鮮組

人間力を身につけよう

個別指導

達成目標、事務職員を含めた議合
第三者による評価（J A B E Eにかかわる）
落第させる

質 問

Q：授業料や経営の話

A：国立大学でやってはどうか

Q：単位互換は音大や看護大学ではむずかしい？

A：・音大と上智大でやっている。音大にとっては一般教養でメリットがある。

・看護大では入学目的が明確なので、他の科目を必要としない。留学生のカリキュラムもめいっ
ぱい。

・要件に込めるかどうか



プログラム 「科目設計1:授業名と目標,内容の作成」

グループ作業記録

| | |
|--|----------------------------|
| <h3>新人班(A班)</h3> | 司会者：村山 記録者：三浦 発表者：前山 |
| <p>“大学の個性を発揮する授業”</p> <p>1 授業名 「世界に出て自分を知る～海外インターンシップを通して～」</p> <p>2 学習目標</p> <p>(1)授業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会と今の自分のギャップを知る ギャップを埋めるための学習目標を自由設定できる 社会の仕組みを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ×社会 - 企業社会 世界をリードする日本企業、訪問国の社会 </div> <p>(2)唐突目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の足りないところを表現する 学習目標の年次計画設置できる 異文化コミュニケーション能力とビジネスマナーを身につける <p>3 学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)長期的学習 <ul style="list-style-type: none"> — 講義 — グループ討議 (2)インターンシップ (3)事後学習 - 発表会、討論会 (4)限りなく大学から予算を出す | |

| | |
|--|----------------------------|
| <h2>ききょう班(B班)</h2> | 司会者：早川 記録者：曾田 発表者：阿部 |
| <p>1 授業名 「大学未来プロジェクト」</p> <p>2 学習目標</p> <p>(1) 授業の目標</p> <p>学習者が基礎力をつけ、思考力を養う 大学の理念を現実的に展開する もの(アイデア、価値を含む)が作れるようになる(企業との連携) (大学への帰属意識を高める)</p> <p>(2) 到達目標</p> <p>大学の理念を自分言葉で話せるようになる 社会に価値をもたらすものが創造できる、発信できる 新しい流れを作る</p> <p>3 学習方法</p> <p>オリエンテーション</p> <p>第1回～第5回：建学の精神を学ぶ 第6回～第10回：大学の沿革を学ぶ(卒業生のものづくりの歴史) 第11回～第15回：未来へ向けたものづくりへ (プレゼンも行い、余裕があれば他大学の建学の精神も比較のため学ぶ) 予算：大学+公的な資金</p> | |

| | |
|--|----------------------------|
| <h2>ギョウザ班(C班)</h2> | 司会者：森本 記録者：伊藤 発表者：片平 |
| <p>1 授業名 「<u>ギョウザ力 - ギョウザから地域を見つめ直す -</u>」</p> <p>2 学習目標</p> <p>(1) 授業の目標</p> <p>ギョウザ作りを通して、<u>国際的視点から地域産業</u>をより深く理解する</p> <p>(2) 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食材の生産と流通を調査・理解・説明できる ・各グループの<u>調査結果をまとめて発信できる</u> ・野菜作り、調理体験を通した<u>協調性を身につける</u> <p>3 学習方法</p> <p><u>能動的学習</u> グループ対談・発表・実習</p> | |

| | |
|---|---------------------------|
| <h2>でこぼん班(D班)</h2> | 司会者：程 記録者：加藤 発表者：加藤 |
| <p>1 授業名「資源と生活～家を一軒建てる～」</p> <p>2 学習目標</p> <p>(1) 授業の目標</p> <p>授業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際感覚を培う ・国際依存度を知る <p>住居を建てるとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的資材 ・材料資源 ・流通 ・交渉 <p>(2) 到達目標</p> <p>物流を理解し、日本の役割や立場を説明できる</p> <p>3 学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物流理解 <p>：</p> | |

| | |
|---|----------------------------|
| <h2>アリとセミ班(E班)</h2> | 司会者：安原 記録者：木幡 発表者：武石 |
| <p>1 授業名 「未来の予測への挑戦」</p> <p>2 学習目標</p> <p>現状の諸問題を分析し、未来に起こりうる諸問題を予測し、その解決方法を提案する。 例) 少子高齢化、核廃絶、宇宙開発、グローバル化(感染症の拡がり) e t c</p> <p>3 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択科目：6名×6グループ ・前半：講師による現状の問題提議とグループ討議 後半：グループごとに未来の諸問題を予測し、討議・発表する ・評価方法：討議内容・発表内容で評価するレポートにまとめる <ul style="list-style-type: none"> 1～3回：オリエンテーション(外部講師等を活用して材料提供) 4回～：グループ毎にテーマを決定し、分析・予測に取り組む(適宜、教員がサポート) 13～15回：発表・討議 | |

| | |
|--|----------------------------|
| <h1>新鮮組班(F班)</h1> | 司会者：門叶 記録者：矢崎 発表者：近藤 |
| <p>1 授業名 「就業のための自己分析とセルフケア」</p> <p>2 学習目標</p> <p>この講義を通して受講者は、自己の就業目標および人生のビジョンを築定する。その際に必要な自己分析やセルフケアの方法を身につけることができる。</p> <p>またこの講義を通して、学生 - 事務職員 - 教員との有機的な連携を保つことができる。</p> <p>3 学習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャリアシート作成 2) } 先輩の話(具体的な話) 3) } グループ討論 4) } パネルディスカッション 5) 企業体験 6) アセスメントシート作成 7) 学生 - 教員 - キャリアサポートスタッフでの討論 8) 学生 - 教員 - キャリアサポートスタッフでの討論 9) 学生 - 教員 - キャリアサポートスタッフでの討論 10) キャリアシート作成(中間) 11) エゴグラム(TEG-II)実施 12) 結果のフィードバック 13) S C I(ストレス対策スキル)実施 14) 結果のフィードバック 15) キャリアシート作成 | |

グループ作業記録 プログラム 全体討議記録

- A 「世界に出て自分を知る～海外インターンシップを通して～」
- B 「大学未来プロジェクト」
- C 「ギョウザ力 - ギョウザから地域を見つめ直す - 」
- D 「資源と生活～家を一軒建てる～」
- E 「未来の予測への挑戦」
- F 「就業のための自己分析とセルフケア」

Q：授業目標と到達目標の差「特に到達目標をどのように設定するのか？」(Dグループからの質問)
学生の評価に関わる「到達目標」について、学生主体で進めていく場合、教える側の意図と相反する項目となってしまうのではないか.....

- A：A．自己目標等を設定できているか、各項目に応じて点数化
B．プレゼンの中身で判断、アイデアの中身...
C．栽培能力、協調性等の項目
D．レポートを通して解決策が見られたか
E．キャリアシート等の自己評価を適切にできているか



プログラム 「科目設計2：シラバスの完成」

グループ作業記録

授業科目名 世界に出て自分を知る～海外インターンシップを通して～（新人班（A班））

担当教員： ()

担当教員の所属：

開講学年： 1 年 開講学期： 前期 単位数： 2 単位 開講形態： 演習

開講対象： 全 科目区分： (夏休み集中)

- テーマ

海外の日本企業へのインターンシップを通して、自分を分析する。そして今後の大学生活を通して獲得すべき能力を知りその計画を設定する。

- ねらい

- ・ 社会と今の自分のギャップを知る
- ・ ギャップを埋めるための学習目標を自ら設定できる
- ・ 社会の仕組みを知る

- 目標

- ・ 自分の足りないところを表現できる
- ・ 学習目標の年次計画を設定できる
- ・ 異文化コミュニケーション能力とビジネスマナーを身につける

- キーワード

インターンシップ キャリア形成 コミュニケーション能力 異文化理解

【授業計画】

- 授業の方法

- 日程

- 1 オリエンテーション
- 2 企業側からの説明、情報提供
- 3 講義（訪問国の地理、歴史、文化）とグループ討議
- 4 海外インターンシップ
- 5 ↓ ・ 様々な業務内容を理解するために企業の各部署をローテーション
- 6 ↓ ・ 各部署の仕事を建学、体験、評価する
- 7 ↓ ・ 各部署での必要とされる能力の分析
- 8 ↓
- 9 ↓
- 10 ↓
- 11 ↓

- 12 海外インターンシップ
- 13 ↓
- 14 レポート作成 グループ討議
- 15 発表会

【学習の方法】

- 受講のあり方
 - ・自らの安全を確保する
 - ・時間外のコミュニケーションを大切にする
 - ・インターンシップ注は積極的に取り組む
 - ・日本人以外の友人を作る
- 予習のあり方
 - ・訪問企業からの事前課題（あった場合）
 - ・訪問企業・訪問国についての調査
- 復習のあり方
 - ・実習記録を毎日つける

【成績評価の方法】

- 成績評価基準
 - 発表、討論会：積極性、質疑応答も含む
 - レポート：自分の足りないところを適切に表現できているか
 - 学習目標の年次計画を具体的に設定できるか
 - 実習記録
- 方法
 - 20点
 - 60点
 - 20点

【テキスト】

なし

【参考書】

地球の歩き方

【科目の位置付け】

【その他】

- 学生へのメッセージ
- 履修に当たっての留意点
- オフィス・アワー
- 担当教官の専門分野

授業科目名 大学未来プロジェクト (ききょう班(B班))

担当教員： ()

担当教員の所属：

開講学年： 1 年 開講学期： 後 期 単位数： 2 単位 開講形態：演習

開講対象： 全学年 科目区分：選択必修

【授業概要】

● テーマ

大学の過去を知り、現在を分析し、未来を考える

● ねらい

1) 帰属意識

2) 建学の理念、大学の沿革

3) 大学の未来を自分たちで考え出し提案できる

● 目標

1) 大学の理念、社会的背景、創設者の思いを理解し、自分の言葉でのべる

2) 将来の大学の売り、キャンパス設計などをプレゼンする

● キーワード

帰属意識(愛校心)、建学の理念、未来構想、創造性

【授業計画】

● 授業の方法

講義を数回

演習中心 グループ分け 調査 プレゼン レポート

● 日程

1 - 2 回 オリエンテーション、講話

3 - 5 回 建学の理念、調査、プレゼンテーション

6 - 10 回 卒業生講話、大学の沿革、卒業生の活躍、調査、プレゼンテーション

11 - 15 回 未来へ向けた大学の将来像(プロジェクト構想)、企画、プレゼンテーション

【学習の方法】

● 受講のあり方

全員が主体的議論に加わること

発表について意見を出すこと

● 予習のあり方

- 復習のあり方

調べたことをまとめておく

プレゼンテーションの準備をする

【成績評価の方法】

- 成績評価基準

・平常点 20%

・プレゼンテーション 30%

・レポート 50%

- 方法

【テキスト】

なし

【参考書】

大学の沿革誌

【科目の位置付け】

教養

【その他】

- 学生へのメッセージ
- 履修に当たっての留意点
- オフィス・アワー
- 担当教官の専門分野



授業科目名 ギョウザ力 - ギョウザから地域を見つめ直す - (ギョウザ班(C班))

担当教員： ギョウザ太郎 ()

担当教員の所属：

開講学年： 1 年 開講学期： 前期 単位数： 2 単位 開講形態： 演習

開講対象： 全学年 科目区分： 基盤教育

【授業概要】

● テーマ

ギョウザから地域を見つめ直す

● ねらい

ギョウザづくりを通して、国際的視点から地域産業をより深く理解する

● 目標

食材の生産と流通を調査し、理解する(説明できる)

各グループの調査結果をまとめて発表できる

野菜づくり、調理体験を通して仲間との協調性を身につける。

● キーワード

ギョウザ、体験、食文化、流通

【授業計画】

● 授業の方法

能動的学習を中心に

- ・グループ討議、発表
- ・実習(調理等)

● 日程

- 1 オリエンテーション(課題についての討議含む)
- 2 グループ分け(課題についての討議)
- 3 調査 → 体験
- 4 調査
- 5 中間プレゼン (2グループずつ)、討議
- 6 中間プレゼン
- 7 中間プレゼン
- 8 生産者、販売関係者からの講義
- 9 調査 → 体験
- 10 調査
- 11 プレゼン (2グループずつ)、討議

- 12 プレゼン (2グループづつ)、討議
- 13 プレゼン
- 14 調理実習
- 15 調理実習

【学習の方法】

- 受講のあり方
 - ・主体的に参加すること
 - ・自らの生活に関連付けながら考えること
- 予習のあり方
プレゼンの前には、グループで打ち合わせを行い、準備をしっかりとしておくこと。
- 復習のあり方
毎回の授業後に、疑問点、反省点をまとめておくこと。

【成績評価の方法】

- 成績評価基準
 - 30%
 - 30%
 - 10%
 - 30%
- 方法
中間プレゼンは、形式的評価として扱い、最終プレゼンで成績評価
全体レポート(学期末に)
観察
他グループによるプレゼンの相互評価

【テキスト】

【参考書】

【科目の位置付け】

基盤教育の必修科目

【その他】

- 学生へのメッセージ
- 履修に当たっての留意点
- オフィス・アワー
- 担当教官の専門分野

授業科目名 資源と生活～家を一軒建てる～ (でこぼん班(D班))

担当教員： 3名 (人文/経済/工・農)

担当教員の所属：

開講学年： 1年 開講学期： 前期 単位数： 2単位 開講形態： 講義

開講対象： 全学対象 科目区分： 選択必修

【授業概要】

● テーマ

国際性を培う

● ねらい

人間の生活基盤となる具体的な事例を分析することによって国際的感覚を身につける

● 目標

(1) 環境・国土と建築

(2) 材料の流通

(3) 異文化コミュニケーション

} を理解する

● キーワード

資源、材料、環境、流通、文化、コミュニケーション

【授業計画】

● 授業の方法

3人の教員による講義形式

● 日程

第1回 オリエンテーション

第2～5回 ・建築と環境

(農・工)

・気候と風土

・建築様式と構造

・建築材料

第14回 ディスカッション

(質疑応答、グループを含む)

(第15回 レポート作成、まとめ)

第3～9回 ・材料の需要と供給

(経済)

・生産と流通

・国際法と通貨

第10～13回 ・言葉と文化

・異文化理解

・国際性と言語コミュニケーション

【学習の方法】

● 受講のあり方

主体的に取り組む

● 予習のあり方

● 復習のあり方

学んだこと、興味を持ったことe t cをノートしておく

【成績評価の方法】

- 成績評価基準
 - ・ 3回の小テスト(50%) + レポート提出(50%)
 - 小テストによってテーマごとの理解度をはかる
 - レポートによって総合的な理解、応用力をみる
 - (テーマ:「資源と生活～家を一軒建てる～」キーワードに指定する)
- 基準

【テキスト】

適宜

【参考書】

【科目の位置付け】

【その他】

- 学生へのメッセージ
- 履修に当たっての留意点
- オフィス・アワー
- 担当教官の専門分野

授業科目名 未来の予測への挑戦 (アリとセミ班(E班))

担当教員： ()

担当教員の所属：

開講学年： 1 年 開講学期： 前・後期 単位数： 2 単位 開講形態： 講義・演習

開講対象： 全員 科目区分：

【授業概要】

- テーマ
未来予測への挑戦
- ねらい
現状の諸問題を分析し、未来に起こりうる諸問題を予測し、その問題法を提案する。
- 目標
現状の問題を分析し、新しい未来の問題とその解決法を予測できる。
- キーワード
未来の予測、現状分析、グループワーク、問題解決能力

【授業計画】

- 授業の方法
講義とグループワーク
- 日程

| | | | |
|--|--------------------------------------|---|--|
| 1 オリエンテーション 2 講義と討議 3 4 5 6 7 8 | } } } } } } } } | 環境、政治、経済 医療、国際問題 核エネルギー問題 宇宙開発、IT開発 少子高齢化 | 9 与えられたテーマによる討議 10 テーマ決め 11 中間発表 12 グループワーク・発表準備 13 発表討議 14 15 |
|--|--------------------------------------|---|--|

【学習の方法】

- 受講のあり方
6人×6グループ
- 予習のあり方
- 復習のあり方

【成績評価の方法】

● 成績評価基準

レポート50%、プレゼン30%、学生評価20%

(出席評価も含む)

● 方法

【テキスト】

【参考書】

【科目の位置付け】

【その他】

- 学生へのメッセージ
- 履修に当たっての留意点
- オフィス・アワー
- 担当教官の専門分野



授業科目名 就職のための自己分析とセルフケア (新鮮組班(F班))

担当教員：担当教員+キャリアサポートスタッフ ()

担当教員の所属：

開講学年： 2 年 開講学期： 後 期 単位数： 2 単位 開講形態： 演習

開講対象： 全員 科目区分：

【授業概要】

● テーマ

大学生活や就職した後も重要な自己分析法とセルフケア法を学びます

● ねらい

キャリアシート、アセスメントシート、エゴグラム、ストレスコーピングインベントリーなどを利用した客観的な自己分析を行います

● 目標

この講義を通して、受講者は自己の就業目標及び人生のビジョンを策定する。その際に必要な自己分析やヘルステアの方法を身につけることができる。また、この講義を通して、学生-事務職員-教員との有機的な連携を保つことができる。

● キーワード

就業、自己分析、セルフケア

【授業計画】

● 授業の方法

- ・キャリアシートの作成、外部テストとその分析
 - ・先輩の講演、グループ討論
- } 等を交えた演習による

● 日程

- 1) キャリアシートの作成 : 自分の夢を記入
- 2) 先輩の講話 : 就職実績の多い分野
- 3) 同 上 : 学生の希望が多い分野
- 4) 同 上 :
- 5) 企業体験 : バスツアー
- 6) 同 上 :
- 7) アセスメントシート作成
- 8) 学生-教員-キャリアサポートスタッフでの討論 : 対象外の学生は討論を見学
- 9) 同 上
- 10) 同 上
- 11) キャリアシート(中間)
- 12) エゴグラム(TEG-II)の実施
- 13) S C I(ストレス対処スキル)の実施
- 14) エゴグラム及びS C Iの結果のフードバック
- 15) キャリアシート作成(最終) : ・初回とのギャップを抽出し分析。
・自己点検評価シートに記入。

【学習の方法】

- 受講のあり方
自分の将来を決める講義なので、積極的に受講して欲しい
- 予習のあり方
特になし
- 復習のあり方
キャリアシートや心理テストの結果を元に自分の在り方を考える

【成績評価の方法】

- 成績評価基準
 - ・キャリアシートの変化から自己分析の到達度を計る
 - ・行動領域の 知識、 技能に対応
 - ・時期は プレ、 中間、 最終で行う
- 方法
 - ・キャリアシート、外部テストの結果による自己点検評価シートを基に評価する。
(どこがどう変化したか？何故変化したか？)
 - ・自己評価結果を評価する

【テキスト】

プリント配布

【参考書】

特になし

【科目の位置付け】

【その他】

- 学生へのメッセージ 自分の夢に向かってチャレンジ！すばらしい夢をつかみましょー！！
- 履修に当たっての留意点
- オフィス・アワー
- 担当教官の専門分野

グループ作業記録 プログラム 全体討議記録

- A : 「世界に出て自分を知る」 1年前期 夏季集中 演習
目標 3点
事前レク(オリエン)、インターンシップ10週、グループD、発表討論
評価: レポート、討論の積極性など
- B : 「大学未来プロジェクト」 1年後期 演習 全学 選択必修
目標 2点
講義、演習 主体的参加
評価: 平常、プレゼン、レポート
- C : 「ギョウザカ」 1年前期 演習 全学
目標 3点
能動的に!(グループD、プレゼン、調理実習)
評価: プレゼン、レポート
- D : 「資源と生活」 1年前期 講義 全学
目標 3点
講義&ディスカッション
評価: 小テスト+レポート
- E : 「未来予測への挑戦」 1年通年 講義・演習 全学
目標 1点
講義とグループワーク
評価: 出席、レポート、プレゼン
- F : 「就職のための自己分析とセルフケア」 2年後期 演習
目標 2点
キャリアシート、テストの活用、企業体験、先輩ヒアリング、グループD
評価: キャリアシートの変化による自己分析の深度

Q : 人数とコストの問題をどこまで組み入れたか?

A : F班...学部で工面

A班...具体策は未定

具体例: 学部で 講演会で金銭サポート
・交通費は学生、スタッフの拡充が課題

Q : 音大で演習15回分割はむずかしい。どうしているのか?

A :

(目標がはっきりしすぎ? 分りづらい?) 書類上の問題か?
どうするのか?

Q : 日英語圏の場合は?

A : A班...海外企業インターンを想定していた。

日本語OK

第 10 回 基盤教育FD合宿セミナーパンフレット第2チームの抜粋

F D合宿セミナーに当たって

山形大学では、平成 13 年度よりこの合宿セミナーを実施し、教養教育の目標や授業の企画、シラバス作成を通して授業のスキル向上を実現するとともに、学部間の人的交流の拡大・充実を図ってまいりました。このような基盤のうえに、今年度より、さらに「授業改善」に焦点化したアドバンスプログラムを実施することになりました。

このセミナーの第一の目的は、「個人個人の教員が教育者としての自己認識の深まりと学生の学びを大切にする授業、および授業改善の方法を具体的なケースを交えて考察・議論し、学生を中心とする教育・授業を発展させること」です。この目的を達成するために、本セミナーでは4つの参加型ワークショップを行います。これにより、参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することにもなります。

また、「ワークショップを共通の題材として、学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し、セミナーが終了した後は、参加者が山形大学の基盤教育を始めとした教育全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナー終了後には、参加者が基盤教育を始めとした大学教育分野全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。このセミナーは、「構成員こそが大学の財産」という精神でのぞんでいます。

更に、このセミナーはFDネットワーク“つばさ”の参加校を始めとして、全国の大学等にかかれています。他機関からの参加者にとりましても、本セミナーで学んだことは自校の教育の発展に活用することができるのと同時に、参加者がそれぞれの大学等の財産となる、さらにはそれが我が国全体の財産となるという精神でのぞんでいます。本セミナーが、相互研鑽の精神に則り、参加された大学・短大・高専の発展に寄与されんことを願っております。



第 10 回 山形大学基盤教育 F D 合宿セミナー日程表

期 間 第 2 チーム：8 月 3 日（火）～ 4 日（水）

第 1 日目

| 時 刻 | 項 目 | 担 当 | 参照ページ |
|-------------|-----------------------------|-------|----------|
| 12:50 | 山形大学集合・受付（正門付近） | 事 務 | |
| 13:00 | 送迎バス 大学出発 | | |
| 14:00 | 会場到着・記念撮影 セミナー開会 開会のあいさつ | 司会：杉原 | |
| 14:30 | オリエンテーション | 杉原 | P. 6 参照 |
| 14:40～15:10 | アイスプレ - ク | 佐藤 | P. 9 参照 |
| 15:10～16:50 | プログラム 「あなたの、私の、授業実践」 | 佐藤 | P. 9 参照 |
| 16:50～17:00 | 休憩（10分間） | | |
| 17:00～18:10 | プログラム 「コーチングと F D と」 | 佐藤 | P. 11 参照 |
| 18:10～19:00 | 夕食（その後お風呂・休憩） | | |
| 19:00～20:30 | 入浴・休憩 | | |
| 20:30～22:30 | 懇親会 | | |
| 22:30 | 中締め | | |
| 23:00 | 就寝 | | |

第 2 日目

| 時 刻 | 項 目 | 担 当 | 参照ページ |
|-------------|--|-------|----------|
| 7:30～ | 朝食・部屋退出 | | |
| 8:30～10:00 | プログラム 「授業力の向上 - わかりやすい授業を 実現するために - 」 | 大島 | P. 13 参照 |
| 10:00～10:10 | 休憩（10分間） | | |
| 10:10～11:40 | プログラム 「研修のふりかえりとまとめ」 | 大島 | P. 17 参照 |
| 11:40～ | 修了式（ポストアンケート） | 司会：杉原 | |
| 12:20～ | 昼食 | | |
| 13:10 | 送迎バス 蔵王山寮出発 | | |
| 15:00頃 | 山形駅経由 大学到着 解散 | | |

【留意事項】

セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。

セミナー期間中の個人の呼称は、「 さん」とします。

食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら、共同で配膳作業等を行ってください。

起床と同時に、寝具を使用前と同様に整理・整頓し、使用した宿泊室・廊下等を清掃してください。

退出の際は、使用したシーツ・枕カバーをたたんで、指定する場所に返却してください。

8月3日～4日 第2チーム (1日目)

| | |
|------|------|
| DR-A | 佐藤龍子 |
| DR-B | 大島 武 |

| A班 | 氏名 | 性別 |
|-----|-------|----|
| 山工大 | 兒玉直樹 | 男 |
| 新潟 | 岡田 史 | 女 |
| 高崎 | 綾部園子 | 女 |
| 八戸 | 樺 克裕 | 男 |
| 東北 | 佐々木典彰 | 男 |

| B班 | 氏名 | 性別 |
|------|----------|----|
| 山大人文 | 山田圭一 | 男 |
| 茨キ | 柳澤尚代 | 女 |
| 茨医 | 坪井章雄 | 男 |
| 仙台 | 近藤貴美子 | 女 |
| 相模 | ポーク・ギャリー | 男 |
| 宝仙 | 伊藤仁美 | 女 |

| C班 | 氏名 | 性別 |
|-----|-------|----|
| 山大医 | 山口咲奈枝 | 女 |
| 聖栄 | 橋場浩子 | 女 |
| 杏林 | 森田耕司 | 男 |
| 了徳寺 | 東 亜紀 | 女 |
| 鳥羽 | 澤田圭樹 | 男 |
| 仙台 | 笹生心太 | 男 |

| D班 | 氏名 | 性別 |
|-----|-------|----|
| 山大医 | 武田洋子 | 女 |
| 鶴岡 | 大河内邦子 | 女 |
| 明星 | 松本 司 | 男 |
| 石巻 | 廣瀬裕作 | 男 |
| 山産 | 宮城 聡 | 男 |
| 一関 | 照井教文 | 男 |

| E班 | 氏名 | 性別 |
|------|-------|----|
| 山大地教 | 山本英弘 | 男 |
| 宝仙 | 恒松由記子 | 女 |
| 了徳寺 | 中村 浩 | 男 |
| 浜松 | 中津川智美 | 女 |
| 羽陽 | 花田嘉雄 | 男 |
| 佛教 | 田中智子 | 女 |

| F班 | 氏名 | 性別 |
|-----|-------|----|
| 山大医 | 古川孝俊 | 男 |
| 聖隷 | 小田原悦子 | 女 |
| 修紅 | 鈴木美樹子 | 女 |
| 明星 | 富田 新 | 男 |
| 山保 | 高橋直美 | 女 |
| 武道 | 廣瀬恒平 | 男 |

山大人文:山形大学人文学部 山大地教:山形大学地域教育文化学部 山大医:山形大学医学部
 山工大:山形大学工学部 明星:いわき明星大学 新潟:新潟医療福祉大学 高崎:高崎健康福祉大学
 八戸:八戸大学 東北:東北女子短期大学 茨キ:茨城キリスト教大学 茨医:茨城県立医療大学
 相模:相模女子大学 宝仙:こども教育宝仙大学 仙台:仙台大学 聖栄:東京聖栄大学
 鳥羽:鳥羽商船高等専門学校 杏林:杏林大学 了徳寺:了徳寺大学 仙台:仙台大学
 鶴岡:鶴岡工業高等専門学校 石巻:石巻専修大学 山産:山形県立産業技術短期大

8月3日～4日 第2チーム (2日目)

| | |
|------|------|
| DR-A | 佐藤龍子 |
| DR-B | 大島 武 |

| A班 | 氏名 | 性別 |
|------|------|----|
| 山大人文 | 山田圭一 | 男 |
| 新潟 | 岡田 史 | 女 |
| 明星 | 松本 司 | 男 |
| 武道 | 廣瀬恒平 | 男 |
| 了徳寺 | 東 亜紀 | 女 |
| 佛教 | 田中智子 | 女 |

| B班 | 氏名 | 性別 |
|-----|-------|----|
| 山大医 | 武田洋子 | 女 |
| 聖栄 | 橋場浩子 | 女 |
| 茨医 | 坪井章雄 | 男 |
| 羽陽 | 花田嘉雄 | 男 |
| 東北 | 佐々木典彰 | 男 |
| 明星 | 富田 新 | 男 |

| C班 | 氏名 | 性別 |
|-----|-------|----|
| 山大医 | 古川孝俊 | 男 |
| 茨キ | 柳澤尚代 | 女 |
| 杏林 | 森田耕司 | 男 |
| 浜松 | 中津川智美 | 女 |
| 山産 | 宮城 聡 | 男 |

| D班 | 氏名 | 性別 |
|------|-----------|----|
| 山大地教 | 山本英弘 | 男 |
| 修紅 | 鈴木美樹子 | 女 |
| 高崎 | 綾部園子 | 女 |
| 相模 | パーク・ギャラリー | 男 |
| 鶴岡 | 大河内邦子 | 女 |
| 仙台 | 笹生心太 | 男 |

| E班 | 氏名 | 性別 |
|-----|-------|----|
| 山大医 | 山口咲奈枝 | 女 |
| 聖隷 | 小田原悦子 | 女 |
| 了徳寺 | 中村 浩 | 男 |
| 八戸 | 樺 克裕 | 男 |
| 宝仙 | 伊藤仁美 | 女 |
| 一関 | 照井教文 | 男 |

| F班 | 氏名 | 性別 |
|-----|-------|----|
| 山大工 | 兒玉直樹 | 男 |
| 宝仙 | 恒松由記子 | 女 |
| 石巻 | 廣瀬裕作 | 男 |
| 仙台 | 近藤貴美子 | 女 |
| 山保 | 高橋直美 | 女 |
| 鳥羽 | 澤田圭樹 | 男 |

オリエンテーション

1 FDの必要性

大学の社会的教育責務の明確化。

大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革。

大学生の質の変化への対応。

2 合宿セミナーの目的

教員個人が大学を支えることの位置付け。

学生一人ひとりの発達と同様に教員一人ひとりが同僚の力を得て発達することを改めて確認する。

教授法について共に考え、スキルアップする。

教員相互の交流。

3 セミナー形態

体験型のセミナーで、セミナー自体がグループ学習形式であり、参加者は、学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

参加者によるセミナー全体の運営

セミナーのグループ構成：6班

「プログラム ・ 」(1日目)と「プログラム ・ 」(2日目)で、班構成を替えます。

プログラムによっては、全体での発表の際に記録をとるための記録係を置く場合があります。また、グループワークにおいて、各班に、司会者、記録係等を置く場合もあります。

「 」で記録したものは、各プログラム終了後に提出していただきます(この記録は、こちらでコピーした後、速やかに全班に配付します)。

最終日に合宿セミナーに関するポストアンケートを実施します。

プログラム 「あなたの、私の、授業実践」では、皆さんお一人おひとりの授業実践(特に教育方法の改善等)について、お話いただきます。各人の教育方法を共有化すると意外なお宝が発見できます。

プログラム 「コーチングとFDと」は、グループ内でコーチングをしていただきます。

プログラム 「授業力の向上 - わかりやすい授業を実現するために - 」は、授業スキルについての講義を聴いたうえで、「よりよい授業、わかりやすい授業」をテーマにディスカッションしていただきます。

プログラム 「研修のふりかえりとまとめ」は、プログラム の討議結果の発表、及び全体のまとめを行います。

平成 22 年度 第 10 回山形大学基盤教育 F D 合宿セミナー
「相互研鑽による基盤教育の飛躍をめざして」

プログラム 「あなたの、私の、授業実践」では、皆さんお一人おひとりの授業実践（特に教育方法の改善等）について、お話しいただきます。独自の教育実践を積み重ねている方、これまでの経験を踏まえて毎年新しいチャレンジをしている方、特に意識していないが、この点は気をつけているという方など、各人の教育方法を共有化すると意外なお宝が発見できます。秋からの授業に活用できる「新しい発見」があると思います。

プログラム では、コーチングスキルの一部を体験します。Teaching 技術だけでなく、Coaching 技術を学ぶことにより、教えるスタイルの幅が少し広がるでしょう。教え込む（外から内へ）だけでなく、引き出す（内から外へ）方法を学びます。コーチングは学生だけでなく同僚にも応用可能です。各学部・部局でコーチングマインドを持って F D を進めると、新たな展開が生まれるかもしれませんね。

プログラム では、1 日目のプログラムで検討した内容を実現するための基礎となる「授業力の向上」を目指して、講義 + ディスカッションを行います。

プログラム では、プログラムのディスカッション結果を全体発表するほか、本研修全体のまとめを行います。自分のコミュニケーションスタイルは、この研修をとおして他のメンバーにどのように映ったのか、イメージ交換ゲームで体感してください。

プログラム 「あなたの、私の、授業実践」

| | | |
|--------------------------|-------------------------|-----------|
| プログラムの講師による作業内容の説明 | 8 分 | |
| 考える時間 + 記入時間 | 10 分 | |
| プレゼン | 3 分 / 人 | |
| 質疑 | 2 分 / 人 | |
| チームで共有化・チームでよかった実践 3 つ選ぶ | 15 分 | |
| プレゼン | 各チーム 4 分 (× 6 = 24 分) | 全体で 100 分 |

プログラム 「コーチングと F D と」

| | | |
|--------------------------|--------------------|----------|
| プログラムの講師によるコーチングと作業内容の説明 | 20 分 | |
| 「あなたにとっての最高のチャレンジ」 | | |
| 考える時間 + 記入時間 | 8 分 | |
| ペア作業（ヒーローインタビュー） | 16 分 (8 分 × 2 人) | |
| 質疑応答 | 10 分 | 全体で 60 分 |

プログラム 「授業力の向上 - わかりやすい授業を実現するために - 」

| | | |
|----------------------------------|------|----------|
| プログラムの講師による内容の説明 | 5 分 | |
| 「授業力向上のためには - ケーススタディ - 」 (講義) | 55 分 | |
| 「よりよい授業を目指して - ディスカッション - 」 | 30 分 | 全体で 90 分 |

プログラム 「研修のふりかえりとまとめ」

| | | |
|----------------------------------|-----------|----------|
| プログラムの検討結果のプレゼン | 5 分 × 6 班 | 30 分 |
| イメージ交換ゲームの実施 | | 30 分 |
| イメージ交換ゲームのふりかえり | | 15 分 |
| 研修全体のまとめ - 学びを F D に生かしていきましょう - | 15 分 | 全体で 90 分 |

アイスブレイク

プログラム 「あなたの、私の、授業実践」

ここでの課題

プログラム 「あなたの、私の、授業実践」では、皆さんお一人おひとりの授業実践（特に教育方法の改善等）について、お話いただきます。独自の教育実践を積み重ねている方、これまでの経験を踏まえて毎年新しいチャレンジをしている方、特に意識していないが、この点は気をつけているという方など、各人の教育方法を共有化すると意外なお宝が発見できます。FD活動の原体験とも言える授業実践の共有化を、全国の大学のみなさんと一緒に体験しましょう。

（タイムスケジュール）

| | |
|------------------------|---------------------|
| プログラムの講師による作業内容の説明 | 8分 |
| 考える時間+記入時間 | 10分 |
| プレゼン | 3分/人 |
| 質疑 | 2分/人 |
| | (プレゼン+質疑=5分×6人=30分) |
| チームで共有化・チームでよかった実践3つ選ぶ | 15分 |
| プレゼン | 各チーム4分(×6=24分) |
| 全体で | 100分 |

プログラム 「コーチングとFDと」

ここでの課題

プログラム では、コーチングスキルの一部を体験します。Teaching 技術だけでなく、Coaching 技術を学ぶことにより、教えるスタイルの幅が少し広くなると思います。教え込む（外から内へ）だけでなく、引き出す（内から外へ）方法を学びます。コーチングは学生だけでなく同僚にも応用可能です。各学部・部局でコーチングマインドを持ってFDを進めると、新たな展開が生まれるかもしれませんね。

| | |
|--------------------------|------------|
| プログラムの講師によるコーチングと作業内容の説明 | 20分 |
| 「あなたにとっての最高のチャレンジ」 | |
| 考える時間+記入時間 | 8分 |
| ペア作業（ヒーローインタビュー） | 16分(8分×2人) |
| 質疑応答 | 10分 |
| 全体で | 60分 |

プログラム 「授業力の向上 - わかりやすい授業を実現するために - 」

ここでの課題

プログラム ~ で検討した学生のモチベーション向上，授業への参画を実現するためには，まず教える教員自身に指導力・授業力が求められます。「わかりやすい」「興味の湧く」授業を実現するにはどうしたらいいのか。このセッションでは，授業スキルの向上という基本に立ち返り，講師の体験に基づく講義をベースにディスカッション形式で考えを深めます。

| | |
|-----------------------------------|-------|
| プログラムの講師による内容の説明 | 5 分 |
| 「授業力向上のためには - ケーススタディ - 」 | 5 5 分 |
| 次頁のレジюмеにそった講義 | |
| 「よりよい授業を目指して - ディスカッション - 」 | 3 0 分 |
| 講義内容を踏まえ，よりよい授業を実現するためのポイントを整理する。 | |
| 自分の持っている問題点の洗い出しと解決策の模索を行う。 | |
| 全体で 90 分 | |

【ケーススタディ - 私の授業法 - 】

1 . ガイダンスのしかた

必ずワンペーパー作って渡す。 最初の 3 週間で徹底

2 . 授業の組み立て方

9 0 分を 3 つのパートにわけると話しの構造化
時間の使い方を予告し，守ると全体像を見せることが大切
「つかみ」が大切（冒頭に力をいれる）と終わりはすっきり

3 . 効果的な表現技術

言語表現の工夫
・「例示」の多用 相手に合った例を挙げる
・「つなぎ言葉」の活用 ゆっくり間を取って話す
・「用語」の選択と位置付け 新出語に注意

非言語表現の効果
・身体表現 gesture と posture の使い分け
・対人距離 机間巡視 / 指導はどこまで有効か
・表情 笑顔が基本（好意の返報性）
・アイコンタクト プレッシャーと激励

4 . 資料配付と板書

教科書の使い方 買わせたら使う / 使わないなら買わせない
レジюмеの効果 情報を与えすぎない
板書は最高のビジュアル 小学校時代からのお約束

5 . 双方向性の確保

発問のしかた (3 つのポイント)
紙ベースでのやりとり

大切なのはリズム
e x) 大手前短大「なるほどポイント」

6 . 評価のしかた

「合わせ技」が基本

e x) 出席 10% リスニング 10%
小テスト 40%
プレゼン 20% 解答・提出物 20%

主観と客観のバランス

学生が納得できる基準を明示する
(妥当性・客観性・効率性)

個人情報保護と説明責任

授業期間と終了後で区別

プログラム 「研修のふりかえりとまとめ」

ここでの課題

プログラム で議論，検討したより良い授業を実現するためのポイントについて，各グループに発表していただき，全体での分かち合いを行います。また，2 日間の研修を通じて，自分のコミュニケーションスタイルが他人にどんな印象を与えたのか，イメージ交換ゲームを通じてふりかえります。

| | | |
|----------------------------------|-----------|-------|
| プログラム の検討結果のプレゼン | 5 分 × 6 班 | 3 0 分 |
| イメージ交換ゲームの実施 | | 3 0 分 |
| イメージ交換ゲームのふりかえり | | 1 5 分 |
| 研修全体のまとめ - 学びを F D に生かしていきましょう - | | 2 0 分 |
| 全体で | | 90 分 |

各プログラムの記録【第2チーム】

プログラム 「あなたの、私の、授業実践」



プログラム 「コーチングとFDと」



プログラム

「授業力の向上 - わかりやすい授業を実現するために - 」

グループ作業記録

A 班

1 私語が多い

- 解決策：・座席指定をする
- ・ルールづくりをする（2日目以降の注意で退席等）
 - ・学生自身が話す時間をつくる
 - ・私語が止まるまで黙る

2 学生同士が議論してくれない（ゼミ）

- 解決策：・学生の意見（Yes or No 派）でわけて議論させる
- ・学生自身に司会させる
 - ・思ったことを文章で書く時間を作る

3 基礎学力が不足している

- 解決策：・質問することが良いこと、必要なことだという認識
- ・知らないことは罪ではない

B 班

レベル・目的意識

1 学生の格差が大きい

- 解決策：グループ活動 教え合い、協力

特に朝一授業

2 学生の態度が悪い（遅刻・居眠り・内職）

- 解決策：・ルールを示す、模範を示す
- ・作業させる

3 学生との関係作りが難しい

- 解決策：・名前を覚える
- ・あいさつをかわす

C 班

- 1 自ら行動できる（自発的に行動できる）学生が減少している

解決策：・将来の目標（見通し）を具体的に提示
・正しい方法を具体的に示す

- 2 限られた時間内で理解しえる情報量が減少している

解決策：・ポイントを繰り返し提示する。
タイミングは講義の最後ではなく冒頭に。さらに次回の講義の冒頭に
（理解度を把握する工夫 = 例えば二択の質問）
・めりはりを付けた情報提供 確認を効率よく繰り返す

- 3 実験・実習・演習で指示をしなければ行動（対応）できない

解決策：・座学で得た知識との結びつきを平易に示す
・フローチャートを用いて具体的に示す
・問題点 1 の対策に順じる

学生の行動・現状から講義等の問題点を見出す努力！

D 班

- 1 集中できない学生
- 居眠り
 - 私語
 - 携帯

解決策：・居眠りは最初の取り決めにより欠席扱い
・私語・携帯についてはネームカードにより対応し、名前を覚える

- 2 後ろに座る学生

解決策：・教師が動く
・指定席授業
・禁止席を決める

- 3 学力格差をどうするか

解決策：中間層を知る

- ・セメスター途中でのアンケート
- ・小テストによる理解程度を確認

E 班

1 授業を途中で抜ける！！

- 解決策：・ルールを作り学生にわかるように伝える
・自分の授業を受ける権利に注意を喚起する
・他の学生の権利を妨害していることを伝える

2 学生の反応がうすい！！

- 解決策：・集中し易いように授業方法を工夫する（例：視覚刺激を使う）
・グループ課題を与え、参加を促して学生の反応を強化する

3 学生の自主性がない！！

- 解決策：・1対1で聞き出す
・相談に来るように促す
・直接でない（紙による）交流を使う
・将来役立つことにつなげて授業をすすめる
・個人化（個人の学生）の問題に焦点化してゆく

F 班

1 大人数授業でのコントロール

私語・携帯・化粧...

解決策：広めの教室

最低限、まわりに迷惑をかけないよう

2 学生間の学力格差

- ・文章が書けない
- ・計算
- ・英語

解決策：①を伸ばすよう努力し、②に合わせすぎない

3 配布した資料等の忘れ

なくす・なくても平気...

解決策：最初の授業でファイルを用意するようアナウンスする

忘れ物は？なくすのは防げる

プログラム 「研修のふりかえりとまとめ」



平成 22 年度 第 10 回 山形大学基盤教育FD合宿セミナー
 「相互研鑽による基盤教育の飛躍をめざして」
 ポ ス ト ア ン ケ ー ト

| | | | |
|----|--|----|--|
| 所属 | | 氏名 | |
|----|--|----|--|

1 このセミナーには、積極的に参加しましたか。 で囲んでください。

| | | | | |
|--------|-------|-------|-------|--------|
| とても消極的 | やや消極的 | なんとなく | やや積極的 | とても積極的 |
|--------|-------|-------|-------|--------|

2 セミナーが終了した現在、参加して良かったと思っていますか。 で囲んでください。

| | | | | |
|---------|------|----|------|---------|
| とても悪かった | 悪かった | 普通 | 良かった | とても良かった |
|---------|------|----|------|---------|

3 今回のセミナーにおける次の各項目について、個人的な収穫度(意欲,理解,応用など)を5段階で評価し、 で囲んでください。

| | 悪い | 良い |
|------------------------|----|---------|
| (1) 教育全般 | 1 | 2 3 4 5 |
| (2) 山形大学に対する主体的な参画意識 | 1 | 2 3 4 5 |
| (3) グループ学習形式による学生主体型授業 | 1 | 2 3 4 5 |
| (4) シラバスの書き方 | 1 | 2 3 4 5 |
| (5) プログラム 大学へのニーズと課題 | 1 | 2 3 4 5 |
| (6) プログラム 理想の大学をつくる | 1 | 2 3 4 5 |
| (7) プログラム 授業名と目標,内容の作成 | 1 | 2 3 4 5 |
| (8) プログラム シラバスの完成 | 1 | 2 3 4 5 |
| (9)参加者の相互合流 | 1 | 2 3 4 5 |

4 今回のセミナーを5段階で評価し、 で囲んでください。

| | | |
|--|---|---------|
| (1) プログラムの内容の選択はいかがでしたか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (2) 内容に対する時間配分はいかがでしたか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (3) 内容の難易はどうでしたか。(1:簡単...5:難しい) | 1 | 2 3 4 5 |
| (4) グループ学習による体験型のFD合宿セミナーの教育効果はどうでしたか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (5) このセミナーで示された学生主体型授業を、あなたの授業に取り入れようと思いますか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (6) このセミナーの成果を、これからのあなたの教育活動に活かそうと思いますか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (7) 今回のセミナー会場として蔵王山寮を利用したことについては、いかがでしたか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (8) 今回のセミナーの開催時期はいかがでしたか。1または2に を付けた方は、下記の欄に御希望の時期を具体的に記入してください。 御希望の時期 [月 旬頃] | 1 | 2 3 4 5 |
| (9) 今回のセミナーの企画・運営を総合的に評価してください。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (10) 今回のDR陣を総合的に評価してください。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (11) 今回のセミナー全体を総合的に評価してください。 | 1 | 2 3 4 5 |

【裏面にも御記入願います。】

平成 22 年度 第 10 回 山形大学基盤教育FD合宿セミナー
 「相互研鑽による基盤教育の飛躍をめざして」
 ポ ス ト ア ン ケ ー ト

| | | | |
|----|--|----|--|
| 所属 | | 氏名 | |
|----|--|----|--|

1 このセミナーには、積極的に参加しましたか。 で囲んでください。

| | | | | |
|--------|-------|-------|-------|--------|
| とても消極的 | やや消極的 | なんとなく | やや積極的 | とても積極的 |
|--------|-------|-------|-------|--------|

2 セミナーが終了した現在、参加して良かったと思っていますか。 で囲んでください。

| | | | | |
|---------|------|----|------|---------|
| とても悪かった | 悪かった | 普通 | 良かった | とても良かった |
|---------|------|----|------|---------|

3 今回のセミナーにおける次の各項目について、個人的な収穫度(意欲,理解,応用など)を5段階で評価し、 で囲んでください。

| | 悪い | 良い |
|--|----|---------|
| (1) 授業改善全般 | 1 | 2 3 4 5 |
| (2) 学生を中心とする教育・授業の発展 | 1 | 2 3 4 5 |
| (3) グループ学習形式による学生主体型授業の体験 | 1 | 2 3 4 5 |
| (4) 所属大学に対する主体的な参画意識 | 1 | 2 3 4 5 |
| (5) プログラム あなたの、私の、授業実践 | 1 | 2 3 4 5 |
| (6) プログラム コーチングとFDと | 1 | 2 3 4 5 |
| (7) プログラム プログラム 授業力の向上 - わかりやすい授業を実現するために - | 1 | 2 3 4 5 |
| (8) プログラム 研修のふりかえりとまとめ | 1 | 2 3 4 5 |
| (9) 参加者の相互合流 | 1 | 2 3 4 5 |

4 今回のセミナーを5段階で評価し、 で囲んでください。

| | | |
|--|---|---------|
| (1) プログラムの内容の選択はいかがでしたか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (2) 内容に対する時間配分はいかがでしたか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (3) 内容の難易はどうでしたか。(1:簡単…5:難しい) | 1 | 2 3 4 5 |
| (4) グループ学習による体験型のFD合宿セミナーの教育効果はどうでしたか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (5) このセミナーで示された学生主体型授業を、あなたの授業に取り入れようと思いますか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (6) このセミナーの成果を、これからのあなたの教育活動に活かそうと思いますか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (7) 今回のセミナー会場として蔵王山寮を利用したことについては、いかがでしたか。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (8) 今回のセミナーの開催時期はいかがでしたか。1または2に を付けた方は、下記の欄に御希望の時期を具体的に記入してください。 御希望の時期 [月 旬頃] | 1 | 2 3 4 5 |
| (9) 今回のセミナーの企画・運営を総合的に評価してください。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (10) 今回のDR陣を総合的に評価してください。 | 1 | 2 3 4 5 |
| (11) 今回のセミナー全体を総合的に評価してください。 | 1 | 2 3 4 5 |

【裏面にも御記入願います。】

自由記述欄

5 このセミナーにおいて、良かったと思う点

6 このセミナーにおいて、良くなかったと思う点(改善すべき点)

7 このセミナーに参加して、これからの自分の授業並びに教育活動をどのように展開していこうと考えていますか。

8 御自由に感想を書いてください。

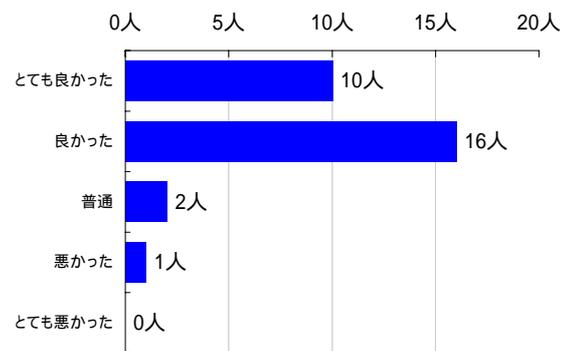
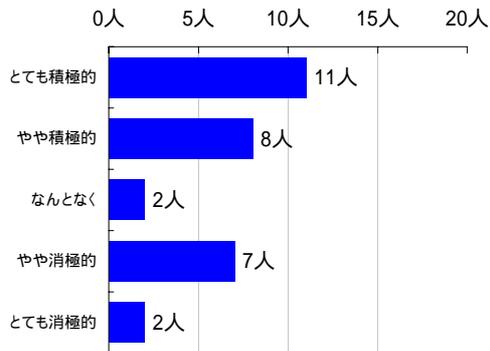
F D合宿セミナーポストアンケート集計結果

- 1 このセミナーには積極的に参加しましたか。 2 このセミナーに参加して良かったと思いますか。

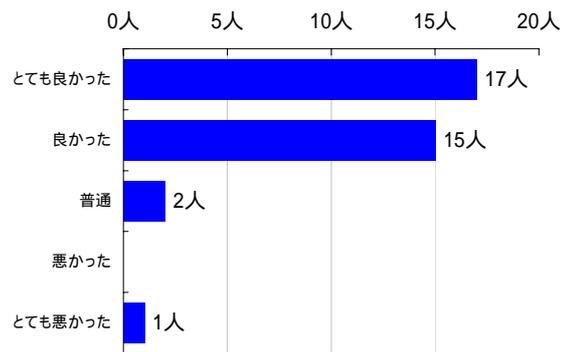
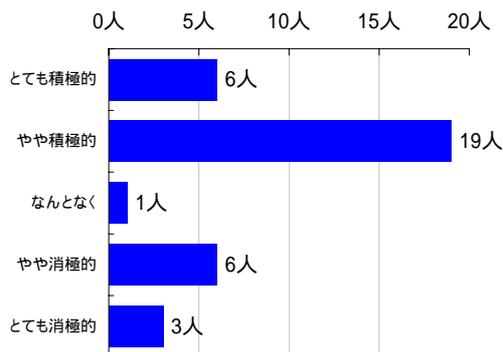
セミナー参加前

セミナー終了後

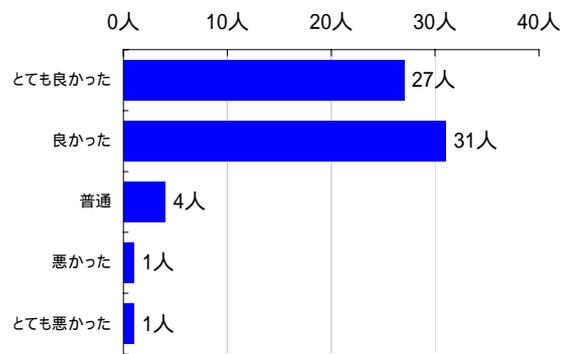
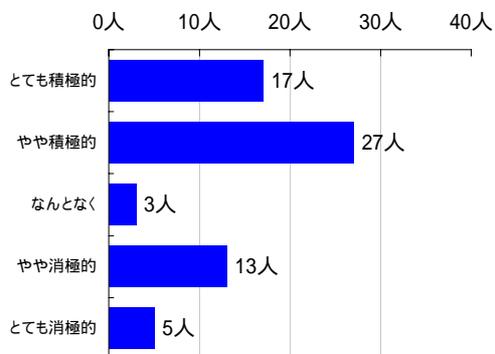
第1チーム



第2チーム

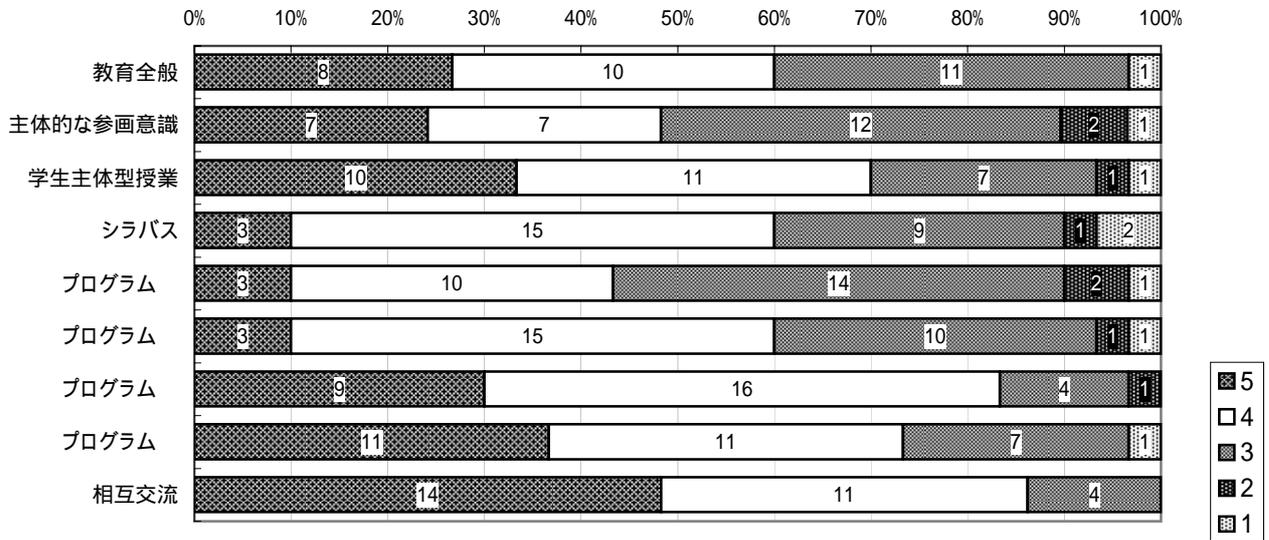


全体

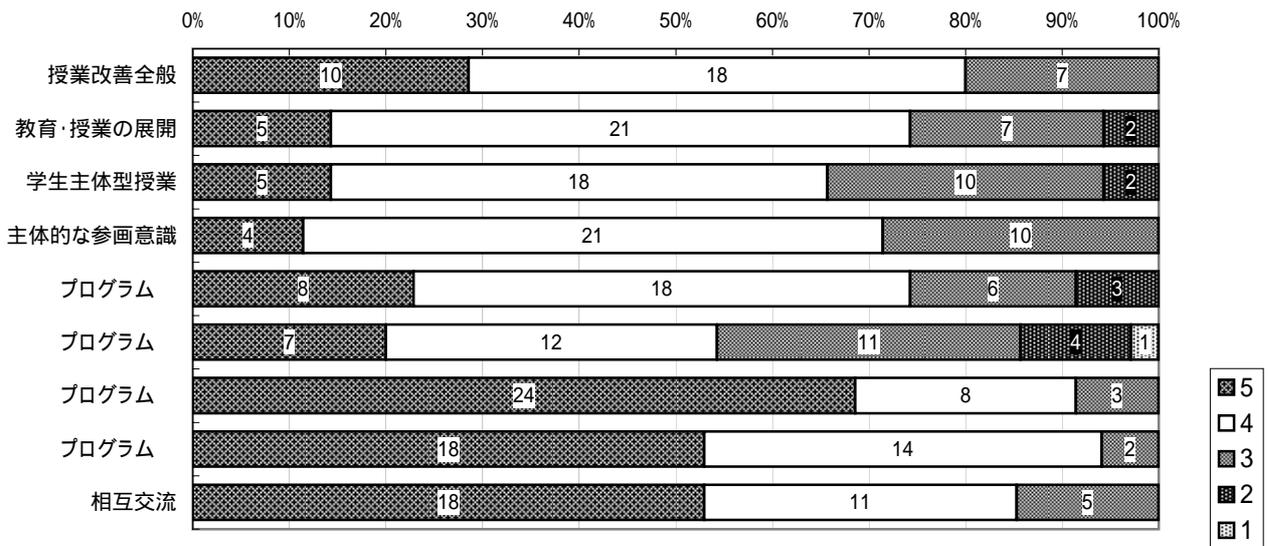


3 今回のセミナーにおける次の項目について、個人的な収穫度(意欲、理解、応用など)を5段階で評価してください。(5:良い…1:悪い)

第1チーム

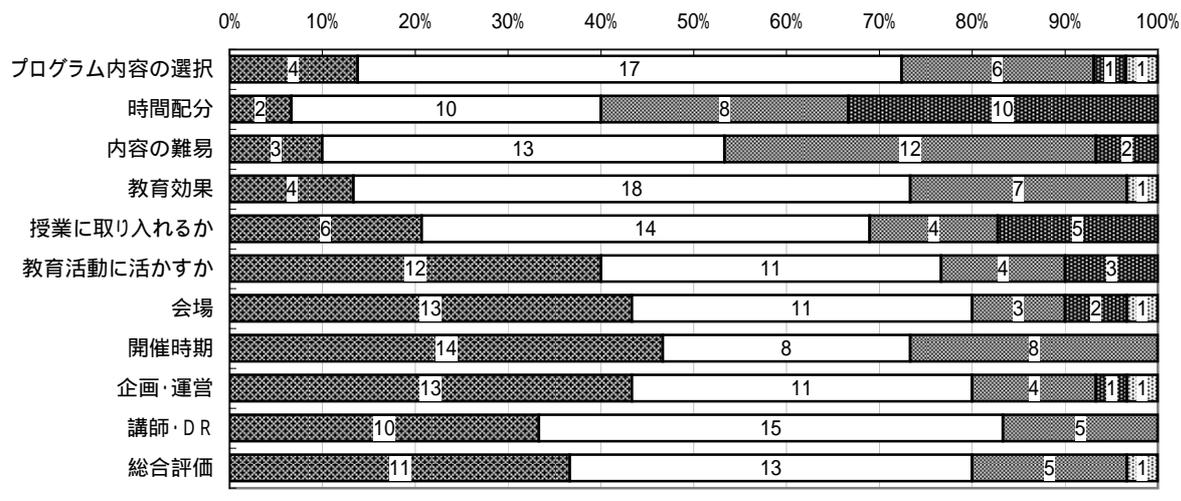


第2チーム

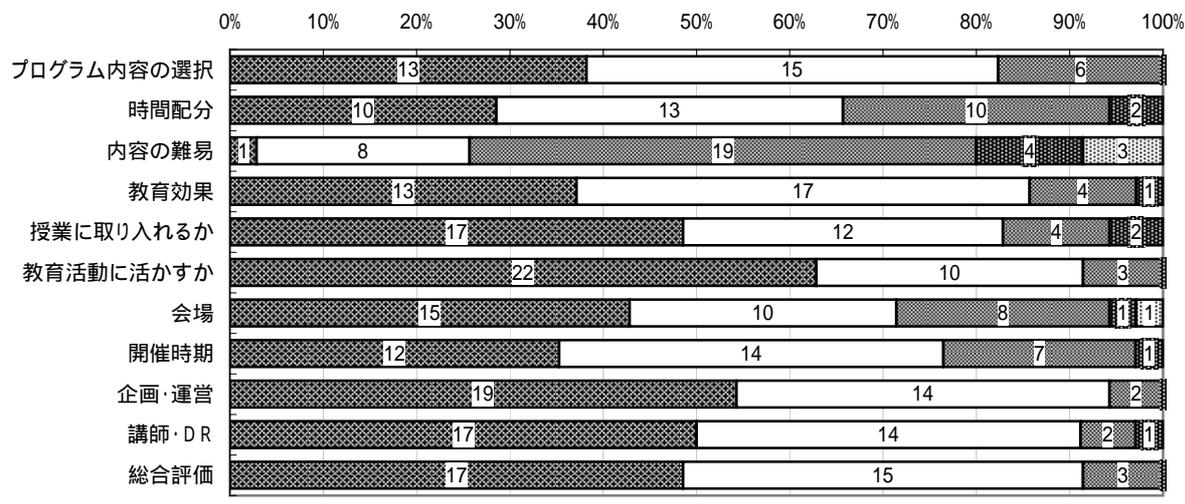


4 今回のセミナーを5段階で評価してください。(5:良い・・・1:悪い)

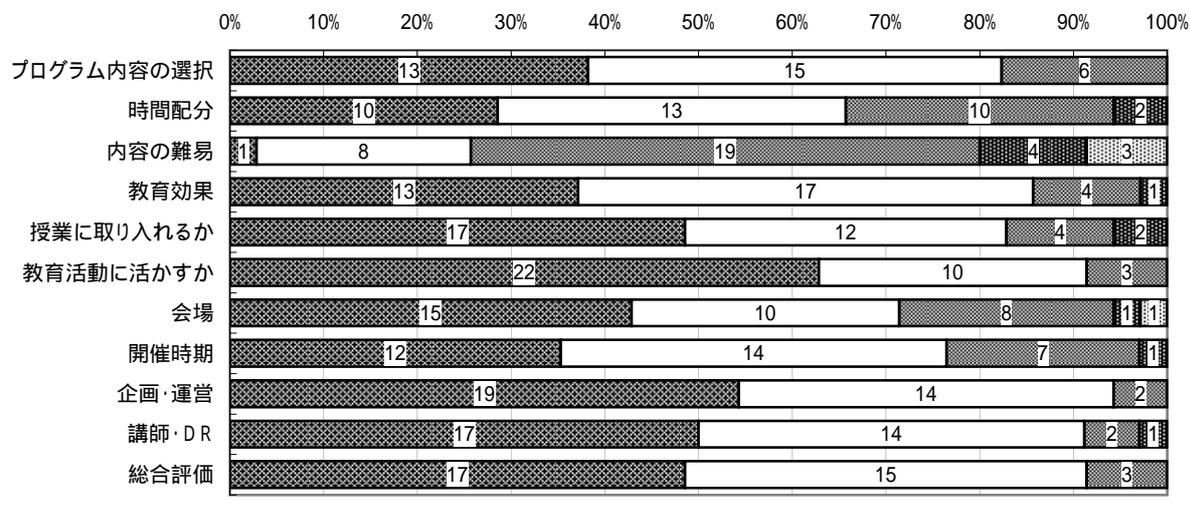
第1チーム



第2チーム



全体



自由記述

(1) 第1チーム

このセミナーにおいて、良かったと思う点

- ・参加者がそれぞれのテーマに積極的に取り組み、ディスカッションが大変充実していたところ。
- ・相互交流。
- ・参加者同士の交流ができた点。
- ・他大学、他学部教員との交流が出来たことは良かった。
- ・学部が異なると授業設計や評価法に考えが違うことを知ることができる。
- ・学生の将来(就職)を考えることの大切さを改めて知った。
- ・自分では体験しえない授業形態(実技科目の担当なので)や学生の希求を体験できた。
- ・グループワークによって様々な分野の先生と意見交換できたこと。共同作業による一体感。
- ・全体としては1泊して、日常から離れたことにより、集中してたっぷり時間が取れたこと。
- ・様々なバックグラウンドを持つ他大学の教員とも接したことで課題や悩みを共有できた。(共通のものも多かった)
- ・普段、疑問に思っていた問題点を他大学の事例を聞きながら学べたこと。
- ・グループの割り振りについて。
- ・役職を「さん」づけで統一していたこと。
- ・時間的制約はあったが、かなり自由に論議できる環境が整えられていた。
- ・教員間の交流。
- ・実際の大学内で行っても出ないであろう(蔵王である)良いセミナーの雰囲気。
- ・教育のやり方、シラバスの書き方、考え方が総合的に理解できた。
- ・日常業務を離れてゆったりとした時間の中で教育について一般的見地から考えることができた点。
- ・他大学、他学部の教員との話し合い、交流。
- ・普段考えたことのない大きな目標、課題(プログラム I, II)について(少しは)考えることができた。
- ・教育に対する多方面からの捉え方があることを知った。
- ・学生、教員、組織(社会)が何を大学に期待しているのかを改めて考える良い機会となった。
- ・FDについて、より主体的に考えるきっかけになった。
- ・課題の流れがよかったと思うが、それぞれの活動が基盤教育とどう繋がっているのかが良くわからなかった。
- ・他大学の状況が生で聞ける点。
- ・参加した教員が積極的にテーマに取り組んでいた姿勢が良かった。
- ・異なる分野の先生との意見交換が大変有意義であった。
- ・教員相互の議論ができた件。
- ・教育内容について考えさせられた点。
- ・他大学の状況、問題、解決法を知ることができた点。
- ・他大学の皆さんと交流が出来た事。

- ・人間力の一言に尽きる事が、各大学の共通項として発見、認識出来た事。
- ・様々な分野の方から、初めての専門用語を聞き、勉強になった。
- ・他大学の状況把握ができたこと。(FD活動の活発さ等)
- ・学生中心の授業について学べたこと。
- ・教育のあり方について交換できたことはとても良かった。
- ・1〜 までの時間設定が適切であった。
- ・学生時代にこのような形での教育はなかったので、体験できたことは今後に生かせると思う。
- ・同じ分野の人との交流がほとんど毎日なので、他大学、他の学部の方と様々なことを話した事、交流出来た事はとても良かった。
- ・目標が大きく設定されており、グループ内での想像の余地が大きく、やりがいがあった。
- ・他大学の教員との交流により、自分の専門領域外のことに多く触れることができ、とても視野が広がり充実した時間を過ごすことができた。
- ・他大学の現状について生の声をきくことができた。
- ・カリキュラムに関する多様な考え方、アプローチを実感できた。
- ・FDに関する問題意識が高まった。
- ・複数人でディスカッションすることが、短時間内に企画を練るのに有効であることが実感された。
- ・授業NG集は参考になった。

このセミナーにおいて、良くなかったと思う点(改善すべき点)

- ・時間の割り振り。
- ・拘束時間が長い。
- ・プログラム : 1~3の項目を1つにまとめるべきでは?理由:相互にかかわっている、1~3の項目に沿って議論を展開してまとめるのが困難。最初であることも考慮して、例えば、「大学へのニーズと現状分析及び改善策の検討」と1項目に集約したほうが話しやすい。
- ・時間的な余裕がなかった。
- ・セミナーの進行が事前に予測できず、意見の調整に手間取った。
- ・発表に対する討論が活発ではないように感じた。
- ・交流が自分の班のみに偏ってしまった。
- ・シラバスの作成については、もう少し時間に余裕があるとよいと思った。「基盤教育」についての考え方の解説や最新の取組事例の紹介もあるとよいと思いました。
- ・一つの課題に対する討論の時間が少々短かった。
- ・課題が多く、深められなかったかもしれない。
- ・結局、シラバスの書き方や授業構成に関しては一人で考えていた時と大きく変わることはなかった。教育学に関する知識がないまま現場から教員になった人に対しては、知識を得るための講義も効果的だと思います。
- ・時間配分(90分)の中で考えが限られること。

- ・もっと頻繁に行ってほしい。
- ・他大学にもっと参加を促してほしい。特に本学への周知を強くお願いします。あまりFDが進んでいない大学では、あまり重要性が知られていない。
- ・特になのですが、FDにせよ、DRにせよ、ポストアンケートにせよどうにか日本語にならないでしょうか…。
- ・使える和室は全部使ってもよいのでは？
- ・懇親会はテーブルをまとめるなどして、もっと参加者同士が交流できるようにしたほうがよかった。
- ・テーマ設定の専門度が高く、高度な論議まで到達しない点。学生主体型授業一般に見られる問題のように感じました。
- ・できれば日帰りにして欲しいが、やるべき内容の多さからは一泊二日もやむを得ない。
- ・プログラムのテーマの大きさに対し、討論時間(40分)と発表時間(4分)は短いと感じました。グループ内での意見集約を十分図れなかったような気がする。(特に1日目) 1日目: 討議時間40-60分、発表時間4-6分程度でいかがでしょうか。
- ・課題の活動が、 、 につながっていないので、 の話し合いを受けて 、 に進めるようにするとよいと思った。ちくはぐな感じがした。
- ・討議時間が少ない。
- ・時間配分が短くて忙しい、慌しく感じた。
- ・深い話ができなかった。(問題点の掘り下げ)
- ・十分に論議する時間がなかった。これはテーマに対する所要時間の算定が正しいか否か…に関係すると思う。
- ・シラバスのフォーマットを改訂すべき。
- ・自分の班の評価は除いた方がよい。(正当な評価を行いくい)
- ・発表時間が少し短い。(5-6分欲しい)
- ・テーマによっては時間不足もあり、十分な話し合いができなかった。
- ・多分、参加者の多くは(山形大学を除く)FD、SD委員の方と推します。このFD、SDの現状と問題点を例えば先駆者の山形大にコメントを頂くコーナーがあってもよかったかなと思います。
- ・A、B、C…の班名と自分たちでつけた班名が混在している場合があり、混乱することがあった。
- ・温泉の近くにあるので、いけないのはちょっと残念でした。
- ・班構成、メンバーの入れ替え(プログラムの流れからして難しいように思われるが)により、新しい意見なども期待できるように思う。
- ・仕方がないことなのかもしれないが、内容に対する作業の時間が短くてまとめるのが苦しい。もう少し時間的な余裕がほしい。
- ・時間が足りなくなる傾向があった。
- ・実際問題、制約に対する想定が不足していた? 現実には則した問題に対する情報交換の時間があってもいいかもしれない。
- ・プログラム内の作業時間が40分と短く感じた。内容が十分に足らず、次のプログラムに移ることが多かったので、プ

- ログラム数を減らし、グループ作業時間を多くした方がよいと感じた。
- ・班ごとの作業時間(40分)が短かった。
- ・事前に配布された資料の内容は、実際に参加してみないと理解できない用語内容であり、事前資料として適切なものとは言えないと思った。一般用語で語られるべき。

このセミナーに参加して、これからの自分の授業並びに教育活動をどのように展開していこうと考えていますか。

- ・多様な授業構成を参考にしたい。
- ・シラバスの改良に反映させる。
- ・学生主体型グループワーク授業は効果的だと思うが、一定の知識を多数の受講生に講義しなければならない科目では中々利用するのが難しい。
- ・学部横断の講義設計などを考えていきたい。
- ・精神的なケア(学生)を考える重要性を伝えていきたい。
- ・FDやカリキュラム作成活動に大いに役立つ。
- ・様々なアイデアをもらったので、実現可能性(予算、時間…)を考慮しながら組み入れていきたい。
- ・科目の性質から、学生主体型授業を取り入れるのは難しいが、学生が自ら参加している意識を持てるように考えていこうとするきっかけになりました。
- ・他の教員と情報共有、SDにも活かしていきたいと思う。
- ・新人教育オリエンテーションに含めるべきであると思う。
- ・学生主体にした場合、学ぶ方向の変化、学ぶ内容の量的変化、評価方法の抜本的発想転換の必要など、多くの検討すべき点がありますが、実際に授業に入れる前に机上で構築しようとせず、多少の犠牲(モルモットとしての)学生をお願いしつつ、学生主体と教育との because を行ってゆきたいと思います。
- ・継続していくことが大事であると感じた。授業を見直し取り組みたい。
- ・成績評価、学生への対応等活用できることが多く、積極的に利用していきたいと考えている。
- ・議論の中にプロジェクト型の課題を取り入れる方法を試してみたいと思いました。
- ・今までも心がけているつもりではあるが、さらに学生が参加(作文、発言、討論)できるような授業を考えてみたい。
- ・学生が自ら学ぶよう、どう授業を実施すべきか思い悩むこともありましたが、このセミナーで色々な考えを聞くことができました。受身主体型ではなく、自分から学ぶ習慣をどう付けさせるか、少しは体得できたと思うので、秋以降の講義で試行的に実践してみたいと思います。
- ・1年次の基礎ゼミの運営に応用していきたい。
- ・学生主体の授業を心がけていますが、人員の関係で中々できません。演習形式にすると知識理解が少なくなるし、講義を中心にする学生レスポンスがなくなります。
- ・教育目標の明確化、評価を考慮した到達度項目と評価の設定に、より一層配慮する。
- ・現実に取り入れたいと思ったものがあつた。

- ・外部のエゴグラムシートを使用したいと思った。
- ・これまでも教員 学生への一方通行にならないように注意して講義してきたが、今後はさらに学生が主となる場合も多く取り入れていきたい。
- ・グループディスカッションをもっと取り入れていきたい。
- ・一方で学生の積極的な参加をどうはかるかを考えたい。(今回はモチベーションの高い教員が参加しているので、直接応用しにくいかもしれない)
- ・各大学共通項目の人間力を意識した教育を展開したい。
- ・キャリアサポート(事務職)にも参加して頂く場の設置を目指したい。
- ・講義中心から、学生主体授業へと転換させていきたい。
- ・授業の仕方には今回勉強したことをいかして色々工夫したい。
- ・参加メンバーの抱える授業における悩みの本質は、同じようなものでありそうだと思う。すぐに取り入れられるもの、時間を要するもの(ex. 来年からとか)取り組むことにより、より良い授業になりそうなものを忘れないように持ち帰りたい。
- ・学生中心に自分達で考えさせるものを工夫していきたい。
- ・専門基礎を一般教養として広く多様な相手を対象に話す機会が増えそうなので、今回の経験を活かしたい。
- ・今回の学びを自分の大学の教員と共有し、授業展開していけたらと考える。
- ・授業のコンセプトをしっかりと考えてシラバスを作成、授業計画を立てたい。

ご自由に感想を書いてください。

- ・このFDでは様々なアイデアが出たり、参加者どうしの意見交換によって企画、シラバス etc. まとまっていくところが楽しかった。ここで出たアイデア etc は、山形大の総合的、全体的な教育に活かしていく必要がある。外部的アピールとしてのFD、とりあえず新人がいくFDを超えたFD、誰かが行かないといけないのではなく、リピーターが出るような魅力的なFDを企画、実行することで山形大学がもっと力のある大学になる一助になるように思う。
- ・大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・小白川の会議室で行えば1日で可能である。(移動時間も節約できる)
- ・内容を企業研修の専門家に見てもらって改善すべき。
- ・交流することで一定の刺激が得られる点が有効ではないかと感じた。より実践的なテクニックが学べそうな2日目の合宿にも参加してみたい。
- ・試みとしてよいと思うが、宣伝や運営(事前広報など)に不満が残る。
- ・サポートありがとうございました。
- ・懇親会の時間が短かった。(飲み足りなかった)
- ・大学教員を対象としたこのようなセミナーはまだ少ないので、今後も開催してほしいです。DRの先生方ありがとうございました。

- ・良い体験でした。ありがとうございました。
- ・大変ためになる研修でした。次回、同じメンバーで集まれる機会を作ってもらいたい。引き続きよろしく願います。
- ・世話人の方(DR?)、他の参加者の皆様、ありがとうございました。
- ・他大学、他学部の状況等について知る良い機会でした。
- ・割り当てで仕方なく参加したが、意義あるものと分かった。
- ・セミナーに参加させて頂きありがとうございました。ますます今後FDセミナーが発展していくよう祈念いたします。
- ・たいへんためになりました。
- ・スタッフの皆様、企画・運営お疲れ様でした。
- ・今後も、このようなFD研修会は実施すべきだと思う。しかし、問題点(現状分析)をもう少し行った後に未来に向けたテーマづくりが望まれた。
- ・山形大学が主体であるが、シラバスのフォーマットは山形大学仕様ではなく、FDセミナー用に新規に準備してはいいかがか? オフィスアワーや担当教員の専門分野などは不要だと思います。
- ・楽しく色々と学ばせていただきました。
- ・企画いただきましたスタッフの方々にお礼申し上げます。
- ・就寝は2段ベッドの上段でしたが、昇降に少々恐怖があった。
- ・所在大学でのFDの推進のための参考になり、大いに利用させていただきたいと考えている。
- ・来られる先生方は、蔵王という場所に気になっているので、蔵王のことをもう少し体験させたほうが良いと思います。
- ・参加してよかったです。ありがとうございました。
- ・大学のありようを考えた時、どのような理想を考えるかと現状の大学が置かれている状況との対照が興味深かった。
- ・教育者としては新人であり、今日の研修はとても不安であったが、グループ学習を通して、充実した学びの時間を得ることができた。ありがとうございました。
- ・もっと早く(何年か前に)このようなセミナーに参加できたならよかったと思う。

(2) 第2チーム

このセミナーにおいて、良かったと思う点

- ・基本的なことを具体的に学ぶことができたところ。(授業の枠組みの示し方、プレゼン、学生の理解の状態の確認のしかた etc)
- ・他大学教員との交流。自分の考え方の傾向を再確認し、考え方の枠組みを広げることができた。
- ・初日の佐藤先生の「剛」タイプの講義と、2日目の大島先生の「柔」タイプの講義のバランス。
- ・各教員の授業実践における工夫を幅広く吸い上げられた点。(特に初日のディスカッション)初日に雑多な話を聞き、2日目に大島先生にまとめていただくという形式だと、初日の知と2日目の知がうまくリンクしたように感じた。
- ・大島先生のお話は本当に「感動」するものだった。大島先生が提案された実践を自分で「試行錯誤」して授業を改善していきたい。
- ・まったく関係のない科目、タイプ、年齢の先生方と交流できた点。
- ・大島先生のプログラム、本当に感動しました。先生のお授業を受けられる学生は幸せですね。
- ・2日間でグループチェンジがあるのは個人的にはよいと思います。皆様、こころと身体をオープンにして何かをつかもう、とらえようという意識をお持ちだからこそのご参加だと思うので、グループワークも盛り上がり楽しかったです。
- ・他大学の先生方と率直な意見交換ができた。
- ・問題点を共有し、解決方法のヒントを得た。
- ・考える時間が比較的多くあったこと。
- ・他学部、他学科の先生方と討論する機会があったこと。
- ・具体的な方法(特にプログラム)なども入手できました。
- ・他大学、他専門の教員と意見交換ができたこと。
- ・授業を行っているなかで、同じような悩みをもっていることが実感できたこと。
- ・グループで討議したあとに、全体でのまとめがしっかり取れていたことで多くの学びが得られた。
- ・他大学の先生方と交流を図ることができた事。
- ・他の先生方の授業実践の話を沢山伺うことができた事。
- ・問題の共有と改善策の明確化ができた点。
- ・他分野の方々と授業改善、またはそれ以外についても、多くのお話をする事ができた。
- ・自らの授業に関して問題点を把握すること(意識を持つこと)ができ、また改善方法なども講師の方やグループ討議の中で先生方に貴重なご意見をいただくことができた。
- ・受身でなく、積極的に参加せざるを得ないのはよかった。
- ・授業で困っていることに対し、対策が見えたこと。
- ・ベテランの専門の異なる先生の実践方法を伺えたこと。
- ・班の仲間と親しみ合ったこと。
- ・女性教員と同室でいろいろ情報交換できたこと。(高専は女性教員が大変少ないので)
- ・授業改善に関する理念(ねらい)をしっかりと示していただいたこと。

- ・改善の具体例を知ることができたこと。
- ・講義 - 議論がほどよく(バランスよく)配置されていて、分かりやすい研修をした。
- ・他大学の授業改善の取組を具体的に知ることができた。
- ・大島先生のレクチャーそのものが良い授業の見本でした。分かりやすく具体的ポイントのしぼり方、ゲームなどすべて良かった。
- ・他大学の教員との交流ができたこと。類似した問題点が多く参考になる意見交換ができた。
- ・大島先生のポイントが分かりやすく参考になった。
- ・時期、開催期間(1泊2日)ともに適当であり、多職種間における交流ができたことは大変有意義であった。
- ・これまでは専門領域における授業内容に磨きをかけることが大学教員としての最重要課題と思っていたが、受け手である学生に主体を置いた授業方法を磨くことも大切であることが認識できた。
- ・自分が実際に対処に困っている問題について、様々な具体的なアドバイスが聞けてとても良かった。
- ・他大学(特に文系)の先生の教育に対する一生懸命さを知れて良かった。
- ・日々の実践で悩んでおられる他大学の先生方と意見交換できた点は非常に良かったと思います。
- ・プログラム の講義は今後の授業改善に向けてのヒントが多くちりばめられていて、とても参考になりました。
- ・様々な大学の先生と意見交換ができたこと。
- ・講師の先生方の講義の仕方から、分かりやすい授業について示唆いただいたこと。
- ・具体的な授業の方々が分かったこと。
- ・自分の授業を改善したいと思っていたので、大変参考になった。
- ・他学の状況を把握することができた。
- ・分野の異なる他校の先生方の話をうかがえた点。
- ・自分の中で不明確だった点を洗い出せた。
- ・人との交流。
- ・大学の学生レベルの差を実感。
- ・40人越えは大人数講義になるという意見あり。
- ・技法を押し付けないのが良い。
- ・授業の悩みを共有できた点。
- ・プログラム と が非常にためになりました。
- ・イメージ交換ゲームはゼミの学生にもやらせてみたいと思いました。
- ・心がリフレッシュできた。
- ・問題点を共有でき、いろいろ話し合ったことは、プラス志向にきりかえるきっかけとなった。
- ・別の先生の考え方と経験を聴くチャンス。
- ・佐藤先生から教えていただいた2つの原則。
- ・様々な分野の方のお話を聴くことができた点。
- ・同僚だからこそ中々口にできないような本音が共有できたのではないかと思う点。
- ・大学の教員像のイメージづくりに非常に役立ったのではないかと思う点。
- ・セミナーを行った環境、スタッフが最高であった。前は1

部に参加し、課題を行うのにせいっぱいであったが、今回は内容、時間に余裕があった。しかし、もう少しグループ課題が1日目にあってよかったかな。

- ・様々な教育形態の異なる大学・学校が一堂に会して総合的な討論を実施できたことは、極めて貴重な経験となりました。教育の実践を企画・模索するにあたり、時折自分が知らない部分を知る絶好の機会であったと考えます。
- ・他大学の先生方と交流できる点が大変良かった。また、様々な分野の先生方がいらっしゃり、教育についての考えかたを多く聴くことができる良い機会をいただきました。
- ・参加者の相互交流。
- ・自分の経験を出発点として議論ができたこと。
- ・他大学の先生と交流や情報交換ができた。
- ・日常の授業における問題点について、色々な先生と共有していることがわかってよかった。
- ・大島先生の授業改善のアイデアは私が見落としていた学生の感覚の気づかせてくれた。
- ・教育に関してすぐに取り入れられる改善策やアドバイスを求めることができた。

このセミナーにおいて、良くなかったと思う点(改善すべき点)

- ・車で参加の場合は駐車場を示して(確保)ほしい。有料でも良いのでよろしく願いいたします。(小さな空き地を見つけましたが大変でした)
- ・佐藤先生の講義はものすごくおもしろかったし役立つが、我々の知らない言葉が普通に使われており理解が進まない点があったのが残念だった。
- ・教員間の交流について、初日のグループ同士、2日目のグループ同士は打ち解けあうことは間違いないので、ご飯や飲み会で所の地のグループメンバーとばかりかたまらないようにすると、より広い人々と交流できるのでは。
- ・本アンケートを無記名式にしたほうが、ざっくばらんな意見が聞けるかもしれません。
- ・スケジュールが多く詰み込みすぎかと思いました。(例えば、ヒーローインタビュー等も話し役、聞き役の両方をこなすことができない時間配分でした)
- ・授業の改善点に関して、参加者全員の発言を聞きかけたように思う。(特に改善策、試み)
- ・体験するのは良いのですが、それから得たものにやや不満感を感じます。具体的なノウハウをもっと知りたかったです。
- ・懇親会がテーブルごとの固定メンバーになったのはやや残念です。立食でもよいのでは？
- ・1日目のメンバーで長く濃い時間を過ごすことができたが、食事、懇親会等グループ以外の先生方とも、もう少し交流する機会があればよかったと思いました。
- ・あとは、少し暑かったところでしょうか...(朝晩は涼しかったです)
- ・学生が10~20人なのか、中程度30~40人、大人数100

人以上なので、出てくる問題点が違いすぎるので、論点が分散してしまった。

- ・部屋(寝る)が狭かった。
- ・宴会をもう少し短い時間で中締めをして頂きたかった。
- ・参考文献を示してもらえると良いと思います。
- ・他には改善点はありません。
- ・コーチングとは？があまり良くわからなかった。カウンセリングと対比させてお話があったが、カウンセリングは「過去の事を聴く」などは少し違うのではないかと傾聴や自己決定を促すなどカウンセリングの作業はあまり変わらない。
- ・時間配分に余裕があるとさらに良かった。
- ・プログラムI、IIの時間配分が少し短かったので、十分なディスカッションができなかった。
- ・2日目の班について、朝食の段階から2日目の班で座るほうが良いのでは？2日目はアイスブレイキングに当たる時間がなかった。
- ・各班のプレゼン前の準備時間が短い。
- ・少し大講義などの Presentation 技術に内容が偏りすぎているように思われます。実験・実習・卒論などで、大学の授業形態は多様で、またその趣旨や目的も異なるので、それらを体系的に運用した際、そのような学生に学習支援を積み上げることができるか、等についても焦点を当てた内容をいずれやっていたいただければと思います。
- ・グループディスカッションにもう少し時間がほしかったこと。
- ・夕食に引き続いて懇親会にしてほしい。
- ・懇親会のときに最初のグループのメンバーに固まってしまう。自己紹介などがあっても良い。時間的に難しい？
- ・寝る場所が快適でない。
- ・チーム化は4名が理想(6名は多いのではないかと)
- ・私の教えている教科の特性上、なかなか応用しづらいものが多かった。実技・臨床系の先生と、それ以外の先生は分けて研修したほうがより効果的なのでは？
- ・2日目は分かりやすく、参考になる内容であったが、1日目のコーチングの見解が、少し私が考えていたものと違い戸惑った。
- ・他人と同じ空間で寝る、ということが久しぶりのことでしたので、本音としては抵抗がありました。
- ・セミナーに参加した人が再度参加していけるよう、内容の変更やグレードアップなどの...についても検討してほしい。
- ・1日目の午後から2日目の午前で全てのスケジュールを終了させることにはなりますが、もう少し時間をとることができればより理解度が向上するセミナーになるものと思われます。
- ・1つずつのワークをもう少し時間をかけたかった。
- ・1日目の講義内容については、もっと解説・事例が必要。
例：コーチングについて ロールプレイ等で示してほしい。
- ・FDがなぜそこまで重視されるのか、いまひとつのみこめてなかった。これまでも色々な先生方が試行錯誤して実践してきた話ではないだろうか。
- ・コーチングについてはカウンセリングなどとどう違うのか分からなかった。
- ・具体的な教育効果もわからなかった。

・学生、どんな学生なのか？何が大学の目標なのかを含んでほしい。

このセミナーに参加して、これからの自分の授業並びに教育活動をどのように展開していこうと考えていますか。

・授業に生かしていきたいことが、たくさんありました。特にパワーポイントをゆっくり、接続詞の言葉を発したときは間をおくといった具体的な手法と共に、自分自身が学生と向き合う姿勢を見直す機会となりました。今後に生かしたいと思います。

・学生に興味を持たせるためには、実に多くの手法や考え方があるのだと感心した。今回習った工夫について運用可能性が高いもの(ex. 授業を3つパートに分ける、イメージ交換ゲーム...)をさっそく実践してみたい。

・授業の組み立て方...基本的なことですが、今一度考えてみようと思いました。私は演習系しか担当していないので、少人数で動いたり、弾いたりするいわゆる実技をともった授業ですが、ケーススタディ～大島先生～は、とても参考になりました。

・学生には分かりやすい授業になるように、授業内容、構成、技法を工夫したいと思います。

・具体的な方法(例えば 90 分を3セットに分けるなど)を応用したいと思います。

・自分の課題や問題点について、ヒントになることや参考にあることが多くあった。すぐ取り入れて実践できることも多く、改善に向けた行動に移していくつもり。

・学生参加型の授業を心がけていますが、今回の合宿に参加してまだまだ細かい点の詰めが甘かったと気付かされました。他の先生方から頂いた解決策を実際に試しながら、より学生満足度が高くなる授業を目指したいと思います。

・実技系の授業とは全て共通することだけではないのですが、授業に対する姿勢、取り組み方など考えさせる。また、導入、生かしていけるポイントをいただけたので、参考にしていきたい。

・感動を忘れないうちに振り返って、応用できることを探していきたい。

・これまで授業はP.P資料配布(穴埋め)方式でしたが、「板書は最大のビジュアル」に感動しました。取り入れたいと思います。

・分かりやすい授業をするためにできる工夫を取り入れようと思います。

・個人的に反省を促された点は良かったと思うが、学校全体を変えていくのに頑迷な教員をどうやって柔軟にしていけばいいのか疑問は残った。

・自分が担当する教科をより関心を持ってもらえるよう、後期から授業の改善につなげていきたいと思います。

・特に具体的な授業のところで改善したいと考えています。

・自分の授業や学生への態度が今までのものはほとんどだめであることが良くわかり、日本の大学全体でこのような活動を行っていくことの大切さを実感した。まず自分の授業の

改善をはかり、自分の大学の同僚に報告し、会議等で学んだことを報告、FD研究会でも論議したい。

・教員側の工夫の余地がまだ沢山あり、具体的な参考例も教わるのができたので、良いものは取り入れてみたい。

・ご教授いただいた内容を自分なりにアレンジして専門分野におけるオリジナリティを確立したい。

・大島先生の実際の授業運営法が大変参考になりました。様々なヒントを頂きました。「ダメ教師なり」のビデオも、笑って済まされないとこがあり、参考になりました。大教室で後ろに座らせない。最初にその日の段取りを言うなど取り入れたいと思います。

・学生への講義をより良くしていこうと思うようになった。(モチベーションの向上につながった)

・今回のセミナーで得られたヒント(例えば「つなぎ言葉」の有効な活用、用語理解への配慮、間をとってゆっくり話すことなど)を今後自分の授業実践や学生指導で試してみたいと思っている。

・講義のポイントがわかりにくいと学生から意見をいただいていたので、講義のはじめに、まとめを示すようにして、改善していきたいと思います。

・感動を与え、学生の学習ニーズに応じた講義ができるよう研鑽していきたいと思います。

・授業の流れにメリハリをつけること、板書の仕方などセミナーの内容を参考に、自分なりの工夫をしていきたい。

・学生とのコミュニケーションが重要であることを再認識した。常にどうすればいいか、もっと良くなるか、何を伝えるべきか、ということを考えていきたい。

・チーム議論(プレゼン・ディベート)は実践しているので、目新しさはない。

・学生に司会をさせるといふのをやってみたい。

・学生に働きかける方法をいくつか学んだので、後期の授業から取り入れていきたいと思っています。

・問題ある学生に対する色々な対策を学科で検討したい。

・これから教えるだけでなく、コーチングをするのも挑戦するつもりです。

・学生の向き合い方や、ひとりの教員としてどう振舞うかなど、専門性にプラスしていく要素を他のみなさんのお話を参考に加えていきたいと思っています。

・多くの大学の教員の皆さんと共に行ったグループワークで得た事、また、講師の方の示された方法などを参考にしていきたいと思います。

・大学のFD、SD中期計画・実行委員を務めることになりましたので、大学全体への情報提供の礎として、今回のセミナーを活かしたいと考えます。今回のセミナーで得られた全ての情報は、今後の私自身の授業、教育活動に大きな(とても明るい)光を提供してくれました。

・今回のセミナーで得られた授業方法(大島先生の講義)の知識はぜひ取り入れさせていただきたいと思っています。学生に伝えたいことを明確に伝えられるよう、今後の講義を改善していきたいと思っています。

・周りの同僚と積極的に意見交換する。

・学生に寄り添う姿勢を見につける。

・授業内容と学生の様子を見て、ケースバイケースで導入したい。
・とりあえず今回の話は取り入れてみようというほどの感動はなかった。
・きびしすぎないようにしようとおもう。
・学生にはユニットで示していこうと思う。
・ゆっくり話すことを心がける、前回の講義のポイントを講義のはじめでおさらいする、今回の授業の目的時間の使い方を予告することを取り入れたい。また、これでいいと思わず、さらに学生が良い授業と思える内容を考えていく。

ご自由に感想を書いてください。

・3日間のセミナー開催のためにご尽力いただいたみなさんに心から感謝します。縁もゆかりもない他大学の教員のためにこれだけ労力を裂いていただくことはそうそうできることではないと思います。
・山大の皆様、ご丁寧なるご配慮本当にありがとうございました。大島先生サイコー!!
・自分自身を見直す場面が多くあり、深層を発見した気持ちです。案外自分のことをわかってなかったんだなあとということに気がきました。
・スタッフの方が1泊2日を2セットずっといらっしゃるのには驚きました。お疲れ様でした。
・山形大学から遠く車酔いをしてしまった。寮を使うことで周りを気にせず研修を受けられたことは良かったが、事前に酔いやすい人へのアナウンスは必要と思います。
・時間に正確な運営をしてくださったので、ストレスが感じられず大変気持ちよく参加させていただきました。きめ細かいご配慮に大変感謝しております。ありがとうございました。
・大学のFD委員長に「行って来い」と言われ、表面にもありましたが「やや消極的」にまいりましたが、本当に楽しく、また貴重なお話、ご意見をいただき自分を研く好機となりました。ありがとうございました。
・三重からの参加でしたが、今後全国から参加者をつのるなら、集合場所を山形大学ではなく仙台などにしてほしい。
・授業で困ることは、自分が未熟なためだと思っていましたが、どの大学でも似たようなことが問題となっていることに驚きました。大学として取り組めること教員個人で取り組めることを分けて考えてみようと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。
・世間と離れた山中で、学生時代のような質素な環境で学ぶことの良さを再認識できた。
・今後、後学期にFDとして授業見学を予定しています。それに向けての自信がついた気がいたしました。また、企画されている山形大のスタッフの先生方の協力の良さに関心いたしました。今後、全国の大学に向けて、授業改善の情報を発信していただければと期待しております。お世話になりました。
・自分にとって教員の生活は60歳後半になってからで、非常に厳しいものである。定年で今までの職業をやめてから

第2の人生としての教職に就いた人も中にはいるのでは？
そういう方がいればセミナーのサブ会などで会いたかった。
・学生の学力低下、やる気低下などを嘆くだけでは問題の解決にはつながらないことを改めて認識してしまった。教員自信がチェンジすることから日本の教育を改革することが必要であります。熱き思いがある先生方に接したことは、これからの財産です。ありがとうございました。
・大学から指名されて出席したのですが、大変参考になりました。他の先生方にもすすめようと思います。
・肝心の山形大学の出席者が少ない。主催する山形大学の教員が自ら高い意欲をもって他大学の参加者をリードするつもりで参加できればいいのに。一学部から最低3人等義務付けてもいいのでは。
・先生方から講義の楽しさや感動をいただきました。ありがとうございました。
・他大学の先生方から元気をいただいたように思います。
・蔵王山寮で解散にしてほしい。そうすれば蔵王温泉に立ち寄れるので。
・学校に戻って全体のFDにどう生かしていくことができるか。個人だけではなく、全体組織のFDについても話し合えたらよかったです。
・学生、特に院生の書く力(修論)が不足しているので、その指導法、個人対応添削、基本のルールはやっていても、まだまだ...。
・異分野の先生方と交流できたのは非常によかった。
・社会科学系の先生の参加がもう少し多ければ、より具体的な意見交換ができたのではと思います。
・専門が地学分野の方との交流は、考え方の幅が広がるので良い。
・短い時間でしたが、貴重な学びの時間をありがとうございました。教員になったばかりで、わからないことが沢山ある中で、このセミナーの参加は、学ぶことが本当に沢山ありました。もうすこし、経験を積んでからのほうが具体的に理解できることも多くなったのかな、という気がします。
・今回の研修で「どのように教えるか」という点について2日間学ぶことができた。次回はFDの観点から「何を教えるのか」という点をわかりやすく伝えることに焦点をあててもらえればと思います。
・次回以降のFD合宿セミナーにつきましても、本学の他学部の教員に積極的な出席(参加)を呼びかけたいと思います。私も再度参加したいと考えております。企画・実施にあたり、関連の先生方に心よりお礼を申し上げます。
・参加する前はやや消極的でしたが、普段の業務ではあまり深く考えたことのない講義の仕方を深く考える良い機会を得ることができました。特に大島先生の講義は大変魅力的で今後自分の講義に多く取り入れていきたいと思いました。とても満足のいくセミナーでした。ありがとうございました。
・こういった機会を他大学の教員も含めて設けてくださる山形大の懐の広さに感動です。ありがとうございました。
・学生に怒っても仕方がないと思って方策を捜していたので、よかったと思う。示唆を多くいただいた。